

家簾俊之君の追悼集

八歳
の
出逢い



2004年6月発行：有志一同

この追悼集を家藤俊之君のお母様に捧げます

中林 たまこ

目次

(敬称省略)

1 . 表紙について

1.1 表紙 PHOT:上田茂 こけし:矢作一子 編集:矢作 正

2 . この追悼集ができるまで

2.1 清野知紘 中林たまこ 河野康弘コンサートお知らせ

3 . 恵明学園と俊之君

3.1 送付してくださった方 田崎吾郎 編集 清野知紘

4 . 絵本2冊について

4.1 「み~つけた」茶畑美寿恵

4.2 「笑顔のもと」増田詩織

5 . 友人からのメッセージ

5.1 清野知紘

5.2 水戸和利

5.3 高橋幸子

5.4 茂木陽子

5.5 外尾明子

5.6 越石新之助 吉田香織

5.7 中林響子 中林創造 中林たまこ

5.8 東京モダンプレイボーイズ

5.9 ベルクの登山会のメッセージ集

善波裕美子 高橋昌一 室井聡 高橋幸子 家籐俊之

6 . 編集後記

表紙について

表紙の写真のこけしは、俊之君の死を悲している私の為に、矢作一子さんが俊之君をイメージし創作してくださいました。
こけしの男の子がまとっている着物の柄は、青空と雲と鯉のぼりを表現しています。
こけしのタイトルは「8歳の出逢い」。

我が家との出逢いが始まったのが、俊之君 8歳の時です。
俊之君は高校を出て、就職するか、又は薬の専門校に行きたいと進路を悩んでいました。
恵明学園で自分が、薬で助けられたから、とその理由を言っていました。私の友人である一子さんのご主人の会社は、働きながら学校に行く学生の奨学生制度を実施していること。
そしてその推薦を申し出てくださいました。
アパート代や学費、生活費は全て会社が負担し、授業のない時間仕事をするといった制度でした。この申し出を含め、いろいろな奨学金制度の資料を私は彼に提供しました。
そして「恵明に居るから大学に行けないなんて、そんなの自分の言い訳。」と話しました。
俊之君は「いろいろ考えたけど、僕早く働いて自立したい。働くのも実は楽しみなんだ。」と結論を伝えてくれました。
頼もしい俊之君がそこには、居ました。

就職した俊之君は、月給が嬉しくて、いつも今月は何を買ったか、報告の電話がありました。この一子さんの申し出のお陰で、俊之君は自分の意志で社会人になる道を選んだと、私は確信しています。

表紙の写真は、私の職場の先輩でもあり、写真家の上田茂さんが1日町田市の谷戸をこけしと一緒に歩き、自然とこけしの美しい写真撮影をしてくれました。
表情のある美しい写真ばかりで1枚を選ぶのに大変苦労しました。
こけしにレンズをあてると、時間がたつにつれ、こけしに表情が出てきて、面白い体験をしたと、感想を伝えてくださいました。

お陰様で一子さんの作品も参加させて頂くことができました。

この追悼集ができるまで

この追悼集ができるまでに何通もの手紙がやり取りされました。交友関係も知らず、どうなるか判断もつかないなかの作業でした。でも多くの方が、私宛に俊之との思い出をお知らせいただきました。それら 1通 1通は、私の宝物として自分のお墓まで持っていくつもりでいます。その中で私とちひろちゃんを書いた文書を抜粋で掲載させていただきます。ありがとうございました。

また1999年、6月26日(土)に恵明学園で彼の為にコンサートを企画しました。ジャズピアニストの河野康弘さんとアマチュアバンド「東京モダンプレイボーイズ」のジョイントコンサートでした。

河野さんは、我が家に遊びにきてくださる我が家の大切な友人です。我が家で俊之君とも会っており、ご協力を快く承諾していただきました。形に残せないため、紙面にてご協力があったことを、記録させていただきます。

家藤俊之君の追悼集について

俊之君を偲ぶ会 世話人 中林たまこ清野知絢

1999年新しい年を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。突然のお便りをお許しください。私たちは、故家藤俊之君の知り合いです。今年、生きていれば昨年9月10日で20才、今年成人式を迎えている彼の姿を思うと、返す返す残念でなりません。

そこで、この気持ちを何かの形に残したく思い始めました。

彼との思い出をお持ちの方々にもご協力いただき、彼の追悼集を作成したいと思います。

追悼集といっても、肩苦しいものでなく、彼との思い出、彼に言いたかった事、なんでも結構です。匿名でもかまいません。文書が苦手な方、写真のコピーに添え、一言でもかまいません。詩でも、ビデオでも、音楽の好きな方は、楽譜でも。楽譜が起こせない方は、テープを送ってくだされば、こちらで楽譜に起こします。なんでもありのパフォーマンス追悼集です。

俊之君は、今北海道にて納骨を済ませ、母親のところで静かに眠っているとのこと。作成した追悼集は、母親のもとに届けるつもりです。

しかし、わたしたちは彼の交友関係を把握できていません。彼の人生の一部を共有しただけです。そこで、面識のない方々に文書でのお願いでは心苦しい限りですが、下記の要領で原稿を集めようと思います。

- 1・恵明学園教職員の方々関係
- 2・恵明学園友人の方々
- 3・中学校
- 4・高校
- 5・職場
- 6・ベルクの会の方々

上記の方で、俊之君と係わりのあった方々の住所をお知らせください。

又、上記の方で中心になり皆さんにお声をかけていただき原稿を集めてくだされば、なお嬉しいです。直接原稿を送付していただいてもかまいません。文章の長さ等、制限はありません。書きたいだけ、御自由にお書きください。

追悼集に載せる資料は、かならずいつの時代からの知り合いかを、明記してください。原稿の期限は、随時受け付け、集まった原稿から構成を考だします。又、ご協力していただける方、ご質問のある方は、下記に御連絡ください。

原稿送付方法又は連絡の方法は、ファックス、メール、郵送、電話のいずれかをお願いします。

電話連絡の場合、日中不在の事が多く、連絡は取りにくいいため、留守電に2回ゆっくりと連絡先をゆってください。後日ご連絡します。

追悼集は、現在のところ8月頃までには作成したいと思っています。

一人でも多くの方に参加していただき、俊之君の短すぎた一生の足跡をしっかりと残したく思います。そして、天国にいる俊之君にその声を、伝えたく思います。

ご協力を宜しくおねがいします。

ご連絡先：〒214 0006 川崎市多摩区菅仙谷 2 3 8 中林 たまこ

、FAX 044-944-0091 E-mail: fwka6833@mb.infoweb.ne.jp

HomePage: <http://homepage3.nifty.com/tmpb/>

室井様

先日は、突然お電話で失礼いたしました。でも、心強いお返事で私は感謝しております。ありがとうございます。日を追う毎に、俊之から連絡が無くその度に彼がこの世に居ないことを実感する毎日を過ごしています。でも、お電話をさせていただき、俊之のことを憶えてくださっている方がいるとの事、大変嬉しく又いい追悼集にしたいと心が元気になりました。

私は、アマチュアでジャズのバンド活動をしているため、プロのジャズミュージシャンと交友があります。その関係で、俊之も彼らに何回か会っています。彼らも、俊之の死を残念に思い協力を申し出てくれました。

そこで、6月26日(土)午後友人の河野康弘さん(ピアニスト)と私のバンド仲間が恵明学園でコンサートをしてくれることになっています。

河野さんは、出前コンサートで人々の家にゆきライブをしたり、日本で使われていないピアノを世界各国に送ったり、自然保護の活動をしたり、私の良き友人でコンサートを聞いた人はかならず心が優しくなったり、暖かい気持ちになります。

彼の活動冊子がありますので、同封いたします。恵明学園ですので、多くの方は難しいですが、お時間がありましたら室井さんもぜひいらしてください。河野さんのライブ中の言葉も追悼集に入れることになっています。又私の友人で自分の作った紙芝居をのせてと協力して下さる方もいます。

自分にそれらをまとめあげる力があるのか、不安が広がっている時でしたので、室井さんのお言葉に私は大変勇気づけられました。ありがとうございます。

形が整いはじめましたら、ご相談することもあるとおもいます。

お急ぎの件がありましたら、そちらの職場にご連絡ください。

どうぞ、宜しく願いたします。

ベルクの会の方々にも宜しくお伝えください。

〒195 0071

町田市金井町2150

和光大学附属梅根記念図書館

Tel:044-989-7494(図書館に直接かかります。)

Fax:044-989-2250

中林たまこ

吾郎先生

お元気でご活躍の事とおもいます。

俊之が亡くなった事が、今だ現実の事と思えず、連絡のない日々が続き「あー本当に亡くなってしまった」とこども達と共に寂しく悲しく思う日々が続いています。

でも、同封させていただいた追悼集作成にちひろちゃんとはなしたり、いろいろ計画を進める事が、なんだか寂しくもあり、俊之に触れているという安堵感を感じています。できる範囲でかまいませんので、宜しくご協力をお願いします。

6月26日(土)、河野さんは大きなコンサートを止め、恵明の人々に会いにきてください。どうぞ、多くの恵明関係者の方々に聞かせてあげてください。宜しくをお願いします。

そのコンサート中のお話は、ほんとに元気がでるし勇気づけられる人が多いです。

河野さんは、世界の国々に行き活躍しているミュージシャンで、こどもから大人まで楽しめるコンサートをつくることのできる人です。人格者ですので、安心してください。

前座で、私の仲間たちも演奏させてください。

彼らは、俊之が我が家に来始めた時から、いつもお正月には俊之に会うとお年玉を用意してくれたり、練習で我が家に集まった時は、皆で楽しくおしゃべりして、別れる際には「がんばれよ！」と声をかけつづけてくれたバンド仲間です。

5月ごろ、打ち合わせを兼ね会場を見せていただきに行きたいと思っています。器材等すべてこちらで用意しますので、必要なものを確かめに行きたいと思っています。その節は、又ご連絡いたします。

季節柄、お体を御自愛されますよう。お会いできることを楽しみにしております。

中林たまこ

河野康弘 with Tokyo Morden Playboys Jazz Concert in 恵明学園

土曜の午後のひととき、ちょっと J A Z Z を楽しんでみませんか！

河野康弘さんの楽しい、心温まる語りと jazz piano、元気なアマチュアバンド、Tokyo Morden Playboys によるスタンダードナンバー生演奏。若葉が潤うあじさいが咲く美しい6月の午後、お出かけください。みんなで楽しみましょう。

日時：1999年6月26日(土)
午後2時開場 入場無料
午後2時30分開演(約2時間予定)

場所：恵明学園(小田原、箱根湯本よりバス 恵明学園で下車)
住所：足柄下郡箱根町小涌谷439

コンサートに関する問い合わせ
電話 ファックス：044-944-0091 中林



演奏者のプロフィール

河野康弘(こうのやすひろ)

1953年11月13日生れ。奈良県生駒市出身。東京都国分寺市在住。
高校卒業後ピアノを始める。大阪芸大を中退し、21歳で上京。矢沢永吉バンドのキーボードとしてプロデビュー。その後自己のトリオを結成し、ライブハウスを中心に意欲的に日本の各地で活動。又、南アフリカやアジアにも目をむけ活動の場を世界に広げている。

「ジャズ」というジャンルにとらわれず、「自然」を題材に取り上げ、独自の音楽を開拓している。「ダイナミックなプレイ」と「素朴な語り」、スタンダードから童謡まで、文字通りジャンル、年齢を超えて音楽の楽しさすばらしさを感じてもらうことを自身のテーマとして活動を続けている。

92年9月より自然保護運動の一環として始めた「冬眠ピアノお目覚めコンサート」を企画、全国でコンサートを開催。新聞、テレビで注目をあつめる。(収益は、不要ピアノを調律しアフリカや世界各国へ送る資金に当てている。)

又、出前コンサートを実施し、日本全国のお家庭に出かけ本格的ジャズを聞かせてくれる。

彼のピアノとその人柄には、現在多くのファンをもつ。

Tokyo Morden Playboys (東京モダンプレイボーイズ)

気の合う仲間たちと、1973年にサークルとして結成したアマチュアバンド。それぞれ、専門の仕事をもちながら、余暇を利用しバンド活動を続けている。

結成当時はオリジナル(フォークロック系)を中心に活動していたが、1991年頃からJazz(スタンダード曲)をレパートリーとして取り込み、現在、年2~3回程度のJAZZコンサート活動を行っている。当日は、バンド暦26年のアットホームな雰囲気のお楽しみください。

なかばやしたまこ(Vocal) 豊泉保(Guitar) 中林哲夫(Bass) 増田辰夫(Drums)
かなまる なおこ(Piano)

家藤俊之君の追悼集参頂いた皆様へ

早いもので俊之が亡くなってから2年が過ぎました。

告別式の時は、たくさんの方々にきていただき本当に感謝しています。きっと、本人もとても喜んでいと思います。 やっと俊之の追悼集が発行されました。ご協力いただいた皆様ありがとうございます。

内容は決して肩苦しいものでなく、俊之との思い出や俊之にいいことなどを自由に書いていただいた暖かい追悼集となりました。 俊之の周りにいて応援してしてくれた人、俊之を愛してくれた人、俊之のそばにいてくれたたくさんの方々との、この追悼集を作ることができました。

俊之がいない今、俊之が19年間一生懸命生きた証を残してあげたい。追悼集を作ることで、これからも俊之を忘れないように、いつもそばにいられるように……

そんな私の願いが叶いました。ありがとうございました。

清野知紘

追悼集にむけ、皆様の暖かいお手紙等、ありがとうございました。ここに、追悼集をお届けします。 俊之が亡くなり、我が家ではいつもとは違う寂しい日々を体験しなくてはならない、2年間でした。 知紘ちゃんと相談し、何かしたい、なにか俊之に触れていたいという思いから、追悼集を作成することにしました。

追悼集をつくるにあたり、私は行動するまでに時間がかかりました。それは、俊之の追悼集を作成することは、俊之の生い立ちや恵明学園の係わりにまで触れることだからです。 できれば、そっとしておくことが一番良い行動であるようにも思った時期もありました。俊之が我が家にくるようになりこどもの頃は、ほんとに心配で泣きながら叱ったこともあります。

俊之は辛いこと、悲しいことは私には話さなかったけれど、きっと頑張って努力し生きていたのだと思います。俊之が優しく明るい青年に成長したことが、何よりの証拠であると私は思っています。それは、俊之を囲む人々が愛情深く彼を応援した結果です。

そんなふうに思い始めた時、私は人間が人の出逢いや環境により成長することを、もし評価があるなら、職種や学歴等が決めるのではなく、その人間性に対するもので、人はそれらによる差別を受ける理由はこの世にあってはならない考え方であることを、皆幸せに生きてゆく権利があることを再確認させてくれました。

俊之はどんな仕事に対しても、自分が自立できていることを喜んでいました。その姿勢は今の日本社会に忘れ去られている「労働の喜び」の原点をみるおもしろいと思いました。しかし俊之のような労働力を、大事にできる企業や社会がどれだけ今の日本にあるでしょうか？

この追悼集が単に俊之の足跡を残すだけでなく、施設にいる子ども達や施設から巣立った方々が俊之の分まで頑張て生きてくださることを、そして施設をしらない方々が彼らを知り応援する一助になってくださればとおもい、追悼集をつくる決心をしました。

でも、その為に私がすることは、知紘ちゃんと生きていた俊之の足跡を集めるだけで十分だと思っています。

なぜなら、俊之がそこに生きてきて、あるがままの自分で19才の若さで私たちの前から姿を消したその足跡こそが語り掛けと思うからです。

パッチワークのような俊之の追悼集ができました。皆様のお近くにおいて頂いて、俊之をたまに思い出していただけたら、とても嬉しいです。

中林 たまこ

恵明学園と俊之君（恵明だより抜粋）

昭和62年9月22日小学校3年の時、俊之君は恵明学園に入りました。

恵明学園に行かなければならなかった俊之君の気持ちを考えると、込み上げてくる辛いものが有ります。

でも、この作文にあるように園長先生や諸先生方、寮母さんの深い愛情に包まれ、豊かな体験をしたことが覗えます。この作文を読むたびに、俊之君が恵明学園で心豊かに暮らしていた事を嬉しく思います。

今も私の耳元には、あの笑顔と共に俊之君のあの言葉が聞こえてきます。

「おばちゃん、僕恵明に行ってなかったら、今ごろグレていたよ！！」

恵明だよりの俊之君の作文もくじ

1.	65	昭和63年1月発行	(小学3年)
2.	66	昭和63年9月発行	(小学4年)
3.	67	平成1年1月発行	(小学4年)
4.	68	平成1年9月発行	(小学5年)
5.	69	平成2年1月発行	(小学5年)
6.	70	平成2年9月発行	(小学6年)
7.	72	平成3年9月発行	(中学1年)
8.	74	平成4年9月発行	(中学2年)
9.	75	平成5年1月発行	(中学2年)
10.	78	平成6年9月発行	(高校1年)
11.	80	平成7年10月発行	(高校2年)
12.	81	平成8年1月発行	(高校2年)
13.	82	平成8年9月発行	(高校3年)
14.	84	平成9年9月発行	(卒園に際し)

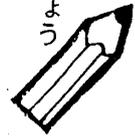
恵明学園に来て、

三年 家藤俊之

恵明学園に来てすぐに、運動会がありました。だから運動会でやる竹馬やフラフープをれんしゅうして、すぐにできるようにになりました。運動会はいろんなものに出れてうれしかったです。

ペンきょうは、三年のペンきょうをやったけど、ぜんぜんわからないから、二年のペンきょうからはじめました。二年のペンきょうをやるのは、はずかしくてやだった、また、できると思っていたけど、むずかしかったです。だから先生にしつこく教えてもらいました。かけ算九九は、おぼえていたから、何回も百点をとって、ほめられてうれしかったです。それから、おちばをあつめて、やきいもをしたりしました。一番うれしかったのは、一りん車にのれるようになったことです。恵明学園に来てよかったと思います。

昭和63年1月



ペンきょう

四年 家藤俊之

ぼくは、本当は、三年だけど、三年のペンきょうができないので、B組のときは重郎先生で二年のペンきょうをやりました。A組になって、おくられているので、三年のペンきょうをやりました。島田先生は、国語、算数、書き方の先生でした。ぼくは、そのペンきょうの中で、一番好きなのは、算数と、国語でした。ときどきわからないものもありました。すずき先生は、社会、理科と、体育の先生でした。理科のときの日の出、日の入りは、なん時なん分ですか。ときかれたりしました。新聞でしらべました。くずのくきの中に、本当に水が通っているのかもやりました。切ると水が出るのでそれは、本当でした。国語ははがき新聞です。はがき新聞は、自分で、楽しい新聞を、作りました。ぼくは、

「楽しい新聞を作ろう。」

と思ったけど、だめでした。なぜかとゆうと、先生の話をちゃんと、聞いてなかったからです。だけど国語がいつばいすすんでいるのとってもうれしいです。算数は、今、円と球です。とってむずかしいです。算数もA組のはじめよりかいつばいすすみました。すすむのは、ちゃんと、もんだいを読んで、頭で考えることです。二学期になってもペンきょうをすすませたいです。

昭和63年9月

里親さんの家

四年 家藤俊之

ぼくは、よしまさ君と、八月十三日に里親さんの米沢さんの家にとまりに行きました。さいしょ、バスで、小田原まで、えみこおばさんとよしまさ君とぼくで、いきました。そして、小田原駅で、ぼくと、よしまさ君は、とよた先生が、来たら、おばさんは二百休みだったので、千葉に帰ってしまいました。そして、とよた先生と、ぼくと、よしまさ君は、向こうがおかゆう園の駅まで電車で行き、里親に行きました。そして里親に行ったらトイレの電気とかおふろばのスイッチを教えてくださいました。とよた先生が帰る時、ぼくは、さみしかったです。おばさん、さみしかったです。そしてお昼ねがかわって、おばさんとおじさんで、公園に行きました。バトミントンをやったりしたのでとってもつかれました。

そしてつぎの日、さきぬまプールに行つてうきわを買ってもらいました。もぐったり泳いだりした。そして二日目、向こうがおかゆう園に行きました。向こうがおかゆう園に着いてお昼ごはんを食べました。そしてプールに行こうと思ったら、雨がふってきたので少しいやになってきました。けど少し雨がやんでよかったです。そして流れるプールに入りました。それからプールから出て、シャワーをあびて帰りました。そして恵明に帰る時、ぼくはおもちやを、買ってもらいとってうれしかったです。さいしょに電車で新宿まで行ってロマンスカーで小田原まで行ってあとはおじさん先生がむかえに来てくれました。里親さんのおじさんとおばさん。ぼくたちをよんでくれて、どうもありがとうございます。冬によんでくれるといいなあと思います。あと食べるのがおぎょうぎよくできて、ぼくは、とってもよかったです。

平成1年1月

五年生になつて

五年 家藤 俊之

ぼくは四年生から、五年生になりました。これから社会や理科が、四年生とちがつて少しむずかしくなっています。算数と、国語は、四年生だけど、早く五年生になりたいです。ぼくは、五年生になつたから五年生らしいことをやりたいです。たとえぼくがこまっていたら助けてあげたいです。ぼくたちは、六年生の次のお兄さんだから、新しく入つて来た、一年生に、分からないことを、教えてあげようと思います。あと、あんまりわずれ物をしないようにがんばりたいです。勉強の国語は、「月の輪ぐま」と言う話です。算数はまだひし形をやっています。早くそこからどんどん進みたいです。理科と社会は、五年生になれてとつてもうれいしです。算数も国語も五年生だつたらよかつたと思います。これからも勉強やスポーツをがんばりたいです。

平成1年9月

はずかし
かつたこと

五年 家藤 俊之

ぼくは、どうしてだろう。どうしてこんなことができたらだろう。先生の前で、ガラスをわつたなんて自分でもわからない。その日は雨だつた。本がぬれたら大変だ。すぐにかけらをかたづけピニールをはった。すぐおこられた。ぼくはいじけてゆかをドンドンやつた。とつても変なことをやつた。とつてもはずかしかつた。

星たちが、今日もやつてきた。はるか遠い国から。北極星を、中心に今日もまた、星たちのかいぎが
はじまつた。

オリオン座カシオペア座がいつものように話しあつて
いる。

何の話かな。

「地球の子どもたちは、元気かな」と言う話、それとも「新しい星が、誕生したぞ」
と言う話、

何だろうな。

朝日が、見えてきた。

遠い遠い海のはてから見え
てきた。

そして星たちのかいぎが、
終つた。

花びらが落ちるように
山のむこうに一つ二つ三つ

星たちは
きえていった。

平成2年1月

映画「はるかなる
甲子園」を見て

六年家藤 俊之

「はるかなる甲子園」に出てる人達は沖縄のろう学校の生徒達です。高校三年生の、耳が聞こえない人達が野球をする。ぼくは、（耳が聞こえないのによくできるなあ）と思いました。

この野球部は、何回試合をやつてもみんなコールド負けでした。みんな汗を流してがんばつて、来る日も来る日もがんばつて、それでも負けてしまいました。

と中で、耳が聞こえない訳を話していました。「お母さんのお腹の中にいた時に、お母さんが風しんという病気がかかつてしまい、耳の神経がやられてしまつて、耳が聞こえなくなつたの。」
と言っていました。

そして、何回目かの試合のとき、九回のうら、三対四で敵のチームが勝つていました。ツーアウト二・三塁でバッターが打つてランナーがホームベースについたと思つたら、アウトになつて敗れてしまい、とつてもかわいそうでした。

平成2年9月

鏡と鏡の世界

六年 家藤 俊之

鏡の中のぼくと自分のぼくと
で
にらめっこしたら
どっちが勝つだろうな
きつと同点だろうな
鏡に光を当てると
反しゃする
鏡の世界があつてそんなこ
とやられたら
鏡の中の人は
まぶしくて困ってしまうだ
ろうな
鏡の中の世界の人は
きつと地球の人口と同じだ
ろうな
だつて
全人類の人の顔を写してあ
げているんだもん
その写っている人が病気で
死んでしまったら
鏡の中のその人まで
死んでしまうだろうな
地球がばくはつしたら
人間がいなくなる
人間がいなくなったら
だれを写すのだろう

きつと何か知らない物を
写しつづけるのだろうな
いつまでも写しつづけるの
だろうな
だけど
その鏡もあつてなく
パリン、とわれて
こなごなになってしまっ
た
そのガラスには
人の喜びの顔や
泣いていた顔など
いろいろ思い出のつま
つている
ガラスなんだろうな

平成2年9月

恵明学園

小学校の三年間

六年 家藤 俊之

三年生の時にぼくは、恵
明学園にきました。三年生
の時に勉強を教えて下さ
った重郎先生、かけ算九九を、
十回連続で百点を取り、ほ
められたり、宿題を忘れて
しりたたきで、たたかれた
りしたことがあつたけど、
とっても楽しかったです。
そして、そろばんを五年生
のとちゅうまで教えて下さ
った本部のおばちゃん、いつ
もふざけていると、「口ば
かり開けていないで、手を
動かさない！」と言つて、
たたかれました。そろばん
はあまり得意では、なかつ
たけど、細かく教えてくれ
たので、かけ算とひき算と
たし算は出来るようになり
ました。島田先生と植山先
生には、音楽を教えていた
だきました。えんそうの曲
をひく前は、とてもむずか
しです。とてもむずかし
い曲もいつも、「ぜつたい
完べきにひくぞ」と思つて
練習しています。島田先生
は曲で、むずかしいところ
を、何回も、教えて下さ
つたので、ひけるようになり

ました。ありがとうございます
ました。家庭科は田中先生。
ぬい物をやる時には、いつ
もやらないで、黒板にらく
書きをしているけれど、ちょ
う理実習になると、いつも
一生けん命やりました。田
中先生に「ぬい物もちょう
り実習も一生けん命やりな
さい。ぬい物も一生けん命
やらないと今度のちよう理
実習やらせないよ。」と言
われ、一生けん命やってい
ます。五・六年生の時、勉
強を教えて下さつた鈴木先
生。社会の時は何回も話を
してくれました。算数の時
は、いつもちんぶんかんぶ
んなことをやっておこられ
て、そしていじける。これ
がいつもぼくのパターンで、
目標に「いじけない」と書
いてあるのですが、直りま
せんでした。中学生になつ
たら、ぜつたいいじけない
ようにします。ぼくのだら
しない所を直してくれた保
母さん、中学生になったら
ぜつたいにだらしない中学
生にはなりません。今まで、
勉強を教えて下さつたり、
ためになる話をして下さ
つたので、ありがとうございます。

中学生になつてもがんばり
ます。

平成3年9月

家に帰ったこと

中二年 家藤 俊之

今年の夏休みも川崎の方のおばちゃんの家へ帰りました。里親でもなく、ただの友達の家なのに、小学五年生のころから毎年、呼んでくれます。今年は、八月十二日から十六日の間帰りました。そしていつも会うと、にっこりして優しい顔をして、むかえてくれます。そしていつも家へ帰ると、ゆっくりできるような感じになります。そして、その友達三人もとても仲が良く、とってもしました。

今年の夏休み、十三日、十四日、十五日は毎日出かけっぱなしでした。とてもつかれましたが、とてもいい思い出になりました。特に、十四日が僕にとってはいよいよ勉強になったな。と思いましたが、十四日は、埼玉県の深谷市へ行きました。そして、その時始めて、焼き物を作ったのです。最初は、花びんをつくらうと

思っていたのですが、最後のところから、変になってきてしまっ、最後は変な形になってきてしまいました。けれど、つくり方も覚えたり、自分でも少しはまんとくできたのでとても良かったです。そして、分かんなかった勉強のところなど、とてもよかったです。思う。

このおばちゃんの家は、とても優しくいい家族だと思えます。僕は、いつもこんな家に帰れて、幸せだと思えます。僕が恵明を出た時、少しでも、おばちゃんがこまっていた時があったら助けるようなことをしたいです。

平成4年9月

卓球大会

中一家藤 俊之

僕は、十月にあった卓球の新人選で、八位以内に入り、県大会に行けることになりました。

その十月から十二月の間、僕は、練習した日よりか、練習しなかった日の方が多かったと思います。そして、そのような日がどんどん過ぎていき、とうとう十二月十三日が来てしまいました。その日の前日、僕は、「一回戦ぐらいは、ぬけるかな。」とか、「十人以上取れなかったら恥ずかしいな。」と頑張ってだんだん心配になってきて、恵明で、練習をしていました。

そして、次の日六時に起き、七時に先生の車がむかえに来ました。そして県大会の会場、藤沢へと向かい、他の中学校の生徒が、いっぱいいました。そして、プログラムを見たら、約八百人いました。とてもきんちょうしました。明中の中で、男子は、僕一人だったので、とてもいやでした。九時から競技が始まりました。僕は、シードだったので、みんなより遅くなりませんでした。女子は、十二時前後に終わったのに、僕だけ一時ぐらいにやりました。きんちょうしてしまっと思ひ通りに体が動きませんでした。とても顔が熱くなっていて、球を打とうとしてもからぶりばかりでした。そしてほとんど点差がひらいていくばかりで、一セットは、全く試合になりませんでした。次のセットはやりと、体も動きだせるようになり、カットもできるようになりました。

けれど、全然ダメで、ドライブも、簡単に打ち返され、終わってしまいました。とてもくやしかったけれど、「もっといっぱい練習すれば良かった」と思いました。もう来年で、部活も終わってしまふけれど、出来るだけがんばって、いい成績を残していきたいと思ひます。

平成5年1月

夏休み中の 実習当番

高一 家 藤 俊 之
 僕の通っている吉田島農林高校では、夏休み中に実習当番というものがあります。仕事内容は、冠水、除草、枝切り、収穫などをやります。そして合計五回は最低やる、果樹、農業基礎、園芸、草花などがあります。その中で一番楽しみなのが、果樹の当番です。作業内容は、キウイフルーツの枝切り、温室の畑の土を耕す作業があります。外の気温が三十五度とすると、温室は四十度近くあります。だから温室から出てくると、外が涼しいぐらいい感じます。そしてそれ等が終わると、高校で作った果物などが食べられます。その時がすごく幸せになります。後、農業の機械なども、使い方を教えてもらってから使わせてくれます。最初は緊張しながら使うのですが、だんだん慣れてくると面白くなり、ふざけてしまいます。すると先生に見つかり、怒られてしまうことがよくあります。だけど始めて使う

機械はすごく面白いです。ふだん見かける農業機械も、使い方が分かるようになりました。冠水は、水をあげ過ぎないようにするのと、雑草を腐らせる時に使う農薬、果実のとり方など知らないことを覚えていきます。まだまだ農業に関して知らないことは沢山あります。暑い中、当番をやるのは大変ですが、これからも一生懸命やっていきたいと思えます。そして自分で作物を育てられるようになります。

平成6年9月

今年の夏

高二 家 藤 俊 之
 今年の夏は僕にとっていろいろなことがあった。野球大会での優勝、休みが始まったからの高校の部活練習、当番、川崎への帰省など。そんな中で今回一番大変だったのが、やはり部活と合宿でした。

今回は去年と違って合宿も早く行われ、練習も去年より断然と多かった。合宿の間、いつも六時に起床してすぐ朝食を作る。食べて片付けをしてから体育館で練習をする。練習するといっても、窓やカーテンは絶対にはいけません。絶対に開けてはいけません。もし窓を開けてしまうと、球が風で変化してしまったり、外からの太陽光線が浴びて球が見えなくなってしまうので、窓もカーテンも体育館への入口も、閉めた練習となる。夏にとっては一番過酷な状態。朝の九時から十一時、午後は三時から五時、夜は七時半か

ら九時までで、その後風呂に入り寝る。合宿で幸せの一時と言え、休み時間と夕食と寝ることだけでした。時々練習が大変で、夕食が咽喉に通らない時もありました。しかし何とか合宿も最後までやり通すことが出来た。今年で合宿は最後だったけれど、去年よりも地味を入れて合宿に臨んだから、とても満足である。去年はおもったより満足出来ず、気持ちの上「合宿ってこんなに軽くて良いものなのだろうか？」などと思ってしまう程だった。しかし今年の合宿こそ本当の合宿だと思った。やはり合宿の次についでと言えは二番だった。去年より比較的になかったが、今年は一「一日中当番を行う」ということで、去年よりずっと辛かったように思える。けれどこのような苦しいことが終わった後の帰省は、天にも昇る気分だった。後は施設の野球大会の優勝、今回もコーチとして、僕の一つ後輩と一

平成7年10月

今年の冬休み

高二 家 藤 俊 之

今年の冬休みはちょっと普通の冬休みと違って、何と今回は方向音痴の僕が郵便局のバイトをやるといふのだ。普通の日でもポケていて何もやらない僕が、配達をやるといふのだからバイトの説明会からその事が頭から離れず緊張ばかりしていた。

そして二十三日、郵便局の仕事として配達を始めた。僕の担当区は宮城野の上で、最初の頃は四時間ぐらいいかかっていたのが、三日ぐらいたつと一時間ぐらいいで終わっていました。郵便局で一番大変だったのは年賀の配達でした。年賀の時は、宮城野郵便局で補充をしながら配達した。初期の配達時間以上になってしまったり、誤配があったりでかなり恥ずかしい思いをしたけれどどうにか全部配達できたので満足出来た。配達をしていて一番大変だったのが犬の放し飼い。今回は二回ぐらい追いかけて死ぬ思いをした。また、配達中に番地が書いていなかったりしてかなり迷ったことがある。

郵便局のバイトをやるとは簡単な仕事として考えていたが、かなり大変でした。このような仕事を毎日やっている郵便局はすごいなと思いました。それから住所と氏名をきちんとした字で書かないと、配達する時大変になるということも今回で分かりました。また郵便局のバイトを出来る機会があるならやりたいと思います。

平成8年1月

緊張した夏休み

高三 家 藤 俊 之

今まで、小・中・高と夏休みをなにげなく過ごしてきた僕だが、今回は従来の夏休みより倍も緊張しながら過ごしてきたと思う。その理由の一つ目は「就職」である。これからの人生を決定させるものなので、いつものんびりしている僕でもかなりあせった。今年は去年より就職の状況が良くなったといってもそんなに変わりはない。一つ目の会社を受けた時に「厳しい」と実感した。まずは第一印象（服装、かみの毛）などで採用するのではないかと不安だった。そして会社見学をして面接を行なったけれども、僕の場合第一印象

であまり良くなかったのだと自分では思い、二つ目の会社を受けた時はかなり気をつかった。二つ目の会社は九月の試験を受けることが出来るが、身を持って今の就職の厳しさがわかった。先生には「就職は厳しい」と言われていたがそんなに

自分では実感しなかった。これから後、九月の試験もがんばっていきなと思う。今年で恵明の夏休みも最後で、今まで九回夏休みを恵明で過ごしてきた。この文を書いている今も今までの夏休みの楽しかった思い出が頭の中でよみがえる。

平成8年9月

思い出

高三卒業 家 藤 俊 之

私が恵明に入園して来たのは、今から九年前の九月頃だった。その頃はちょうど秋の運動会で忙しい時期だったが、みんな仲良くしてくれてとても良かったのをまだ覚えています。私の学園での一番の親友「高村徹也」は学園で始めて出来た友達でした。その時、小三だったので勉強は小学生の最初からやり始めました。A組に入ってから島田先生と鈴木先生に教えてもらいました。五・六年の時は毎日残り勉をしていたのが、今も深く印象に残っています。恵明に来てから三年たち、中学校に入

回戦突破」でした。けど勉強や部活より、私が一番ダメだったのが普段の生活で

した。小学生からの「朝、しっかり起きる」という目標は今でも一番の目標となっています。そして三年前、吉田島農林高校に合格しました。

高校生活は一番思い出に残った三年間でもあり、一番怒られた時期でもありました。高一、高二の時は留年がとても怖い時期でした。高一の時に特に危なく、必死に勉強をしました。一番、心配だったのが就職活動でした。最初は専門学校へ行こうか、就職にしようかとても迷いました。私は就職の道を選びました。これから頑張っていこうと思います。

九年間の学園での生活は、長い様な気がしますが、今振り返ると短いものを感じました。恵明に来ていろんな人に会い、教えてもらい、時には怒られたりもしたけど、今となってはいい思い出になって頭に浮かんできます。スポーツも得意になり、賞やメダルがとれるまで腕が上がったのは一番嬉

しかったです。

恵明の先生、保母さん方、私は自動車部品工場へ就職が決まったのですが皆様は本当に家藤はこのままでいいのかなと思っているといます。私も実はとても心配な事が一つだけあります。それは「早起き」です。この目標はもう何回立てたのか分かりませんが、これからは気をぬく事は許されないので頑張っていきたいと思えます。本当に今まで、お世話になりました。そして最後に恵明で出来た友達、思い出を忘れずがんばってやっていきたいと思えます。本当に有難うございました

平成9年9月

六月二十日、家藤俊之君の急死。昨年高校を卒業し大手電機会社に就職した彼、今年から学園もお世話になってるベルククラブに入り身障者登山ボランティアに参加するなど他人へおもしろい心を開ける様になった彼、高校入学時の検査で判ったW P W症候群、心臓の頻拍発作が原因でした。葬儀は約十年生活した学園ホールで行なわれ、日興電機の皆さんや多くの友人が列席し十九年九月月の短かい一生を終った家藤俊之君と悲しみの別れをしました。葬儀より一週後行方不明だった実母に連絡がとれ彼の遺骨は母親に抱かれ北海道北見へと運ばれました。実母は平成四年に再婚し四才の子がいるとの事、遺骨は埋葬されたの

だろうか。十年振りに母の許へ帰ったのだからこれと良ししよう。

九月十日は家藤俊之二十才の誕生日、この日の朝、ヘルニアになったMの兄が職場の休みで来園、サッカー遊びで複雑骨折、病院や職場へ私も職員も出向く。色々な事がある忙しい児童養護施設だ。

平成10年9月

始終^{しじゆう}苦勞^{くろう}(四十九周年)の年から
創立五十周年の今年

箱根恵明学園園長 田崎吾郎

後援会の皆様、学園を支えて下さる皆様、お陰様で園児六十名、施設職員、学校教員無事越年致しました。心より日頃のご支援ご協力に感謝申し上げます。平成十年は一月に降った二度の大雪に始まり、園児が通う中学校の騒動から学校現場と一部家庭との間にた。兄はまだ治療が続いており職場復帰は二月以後でしよう。夏休み前日には瀬戸校長の足首骨折、正人君と同じ箇所の大怪我、先生におかれましては完治しましたのでご安心下さい。そして十月末に新任保母の中途退職、就職前にやりたかった仕事場に出たとの迷惑な話し、結局補充は出来ず今となっては諦めました。昨年は十九才九ヵ月で短かい一生を終えた卒園生の家藤俊之君はじめ同じ

溝が深まっている事、相変わらず落付いた教室でない現場の姿。就職したばかりの正臣君が作業中、ダンブと壁にはさまれ大怪我、三戸和利君も椎間板ヘルニアになり会社解雇、続いて兄正人君が九月に足首の複雑骨折、二人は学園で療養、また通院の日々でありました。自治会、福祉関係者、後援会会長、親戚、同級生がお亡くなりになられました。私の手帳には三十名以上の名前が記されております。暮れも二十六日、当園の嘱託医として四十年以上お世話になりました安田博先生もその一人でありました。皆様のご冥福を心からお祈り申し上げます。暗く苦勞した四十九周年の平成十年ではありましたが、そんな中でも園児は職員に守られ確実に成長して

おります。五十周年に向け明るい話題も出て参りました。昨年十一月二十八日、藤原章指導員と小倉幸子保母が結婚。元旦の朝に三戸和利君が来園、第一声が「正社員にしてもらえました。」十月から設計事務所でアルバイトしていた彼、この時期本採用は無理と思っただけに新年早々の嬉しい話しでありました。雨も多かった昨年、多くの苦勞が良き経験となり、地を固め、来たる平成十一年十一月一日の創立五十周年が皆様と迎えられる様に努めて参ります。

国や県の財政難が表面化されて来た今日ではあります。故田治林太郎先生が築いた「心通う恵明」の伝統を職員一致団結し、守りたいと思います。皆様のご支援を本年も宜しく、お願い申し上げます。

絵本 2 作について

「み~つけた」の作者、茶畑美寿恵さんは私達バンドが広島「ひとは作業所」の「わっはっは祭」に呼んでいただいた時に、知り合った友人です。

彼女は毎年紙芝居をつくって待っていてくれました。

絵本はその時の作品です。

追悼集用にまた1枚1枚書き直していただきました。

この「み~つけた」は、人間は自分の人生を自分の為に大切にしている権利があること、自分が幸せに自分らしく生きていいことを、その具体的方法が優しいことばと可愛い絵で描かれています。

生前の俊之君とよく話していた会話や言葉を思い出し、作品の掲載を私からお願いしたものです。懐かしい会話と言葉はこんな言葉でした。

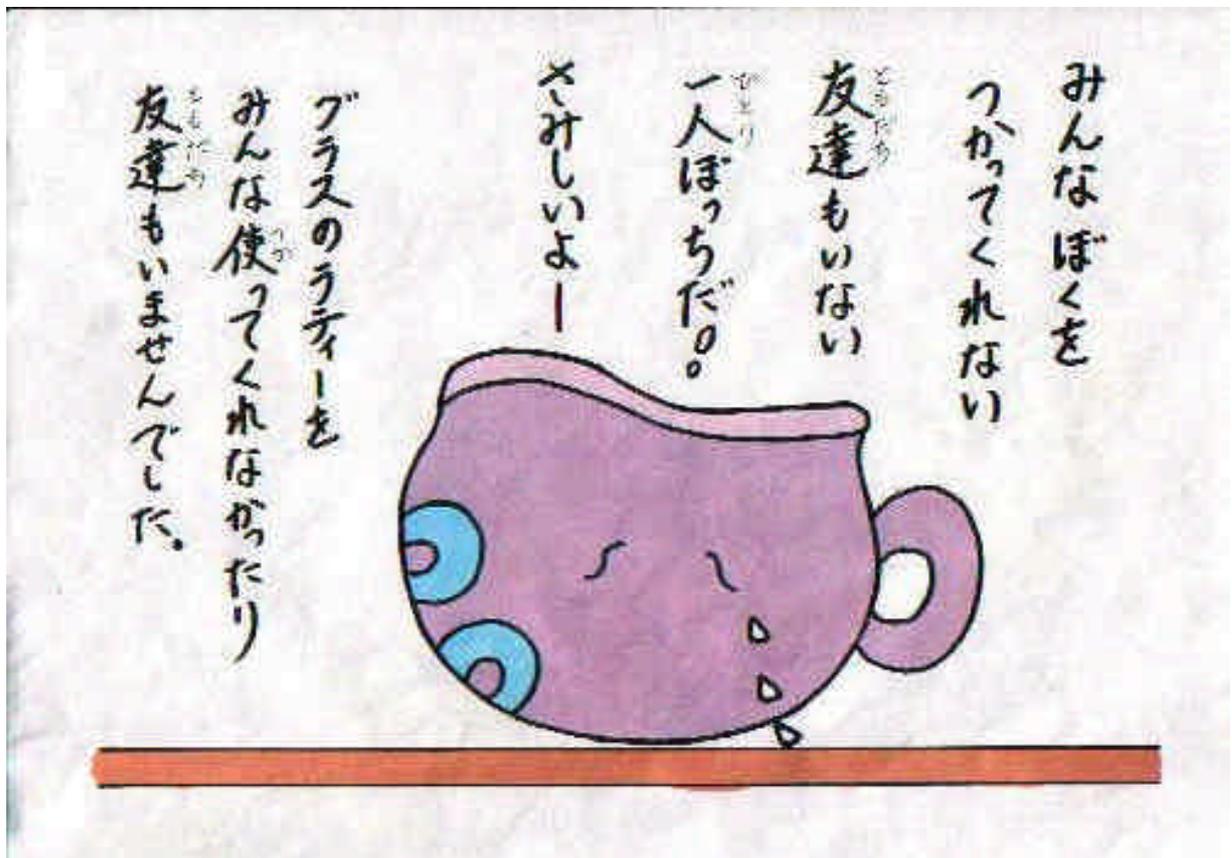
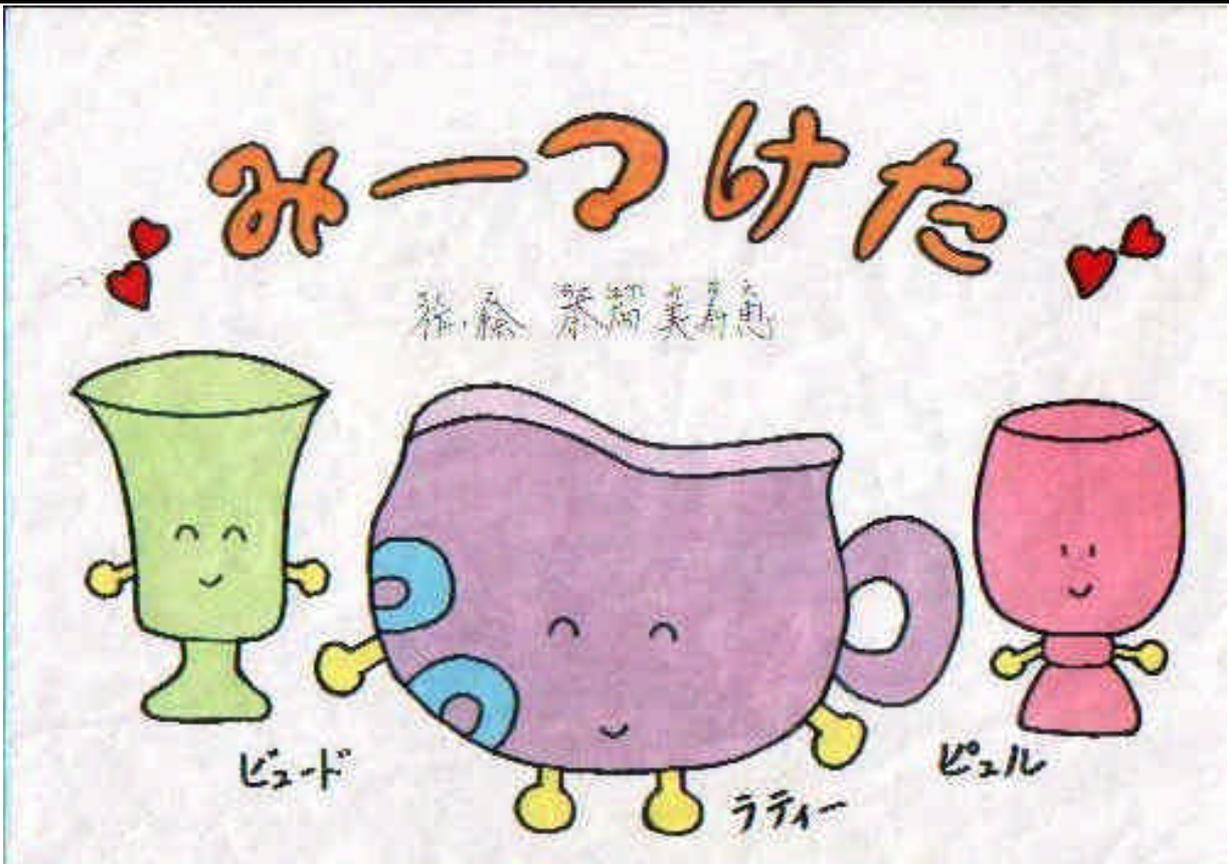
「俊之君は俊之君で素適だよ。この世でたった一人の俊之で、その代わりは誰にもできないのだよ」それをいうと、恥ずかしそうに笑った俊之君。

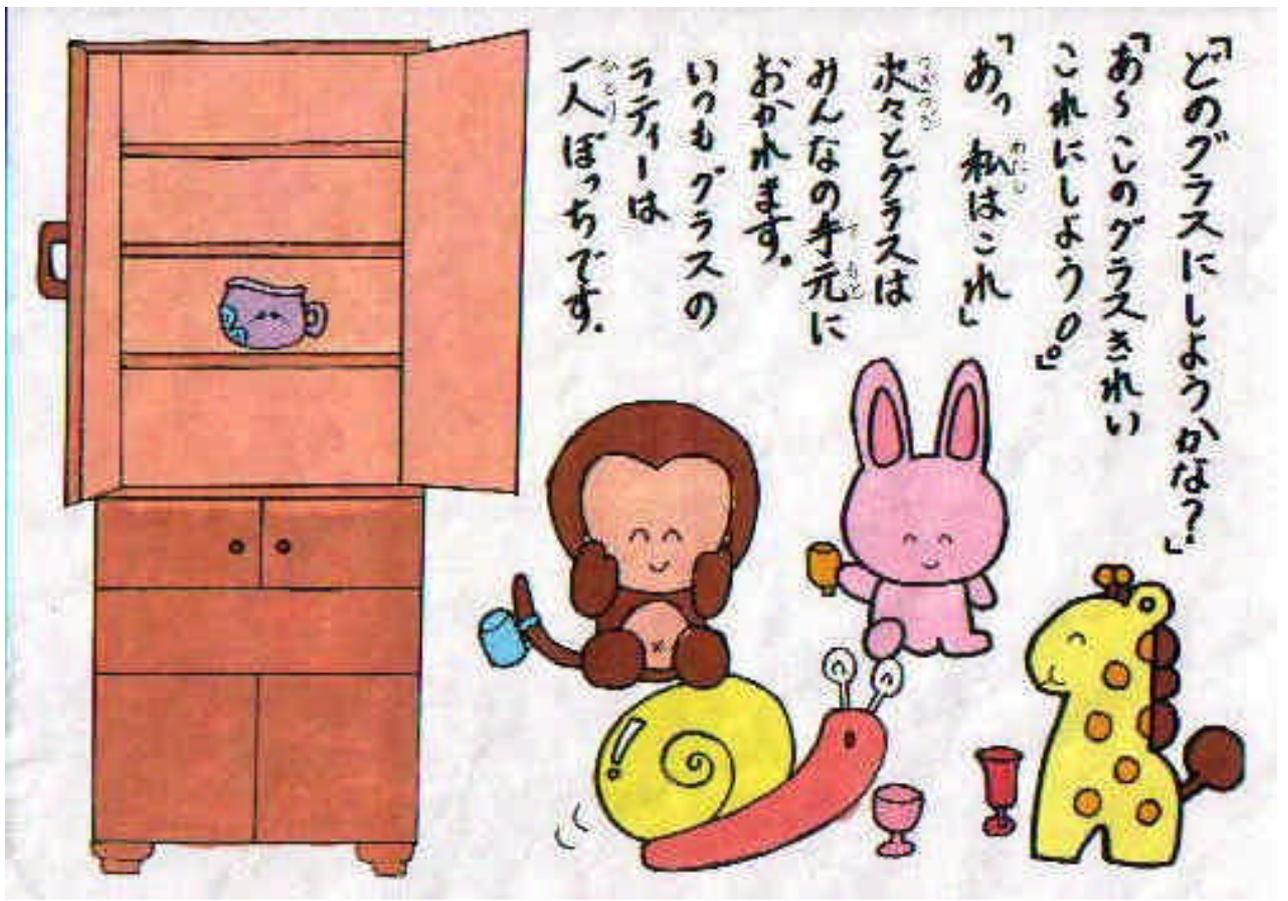
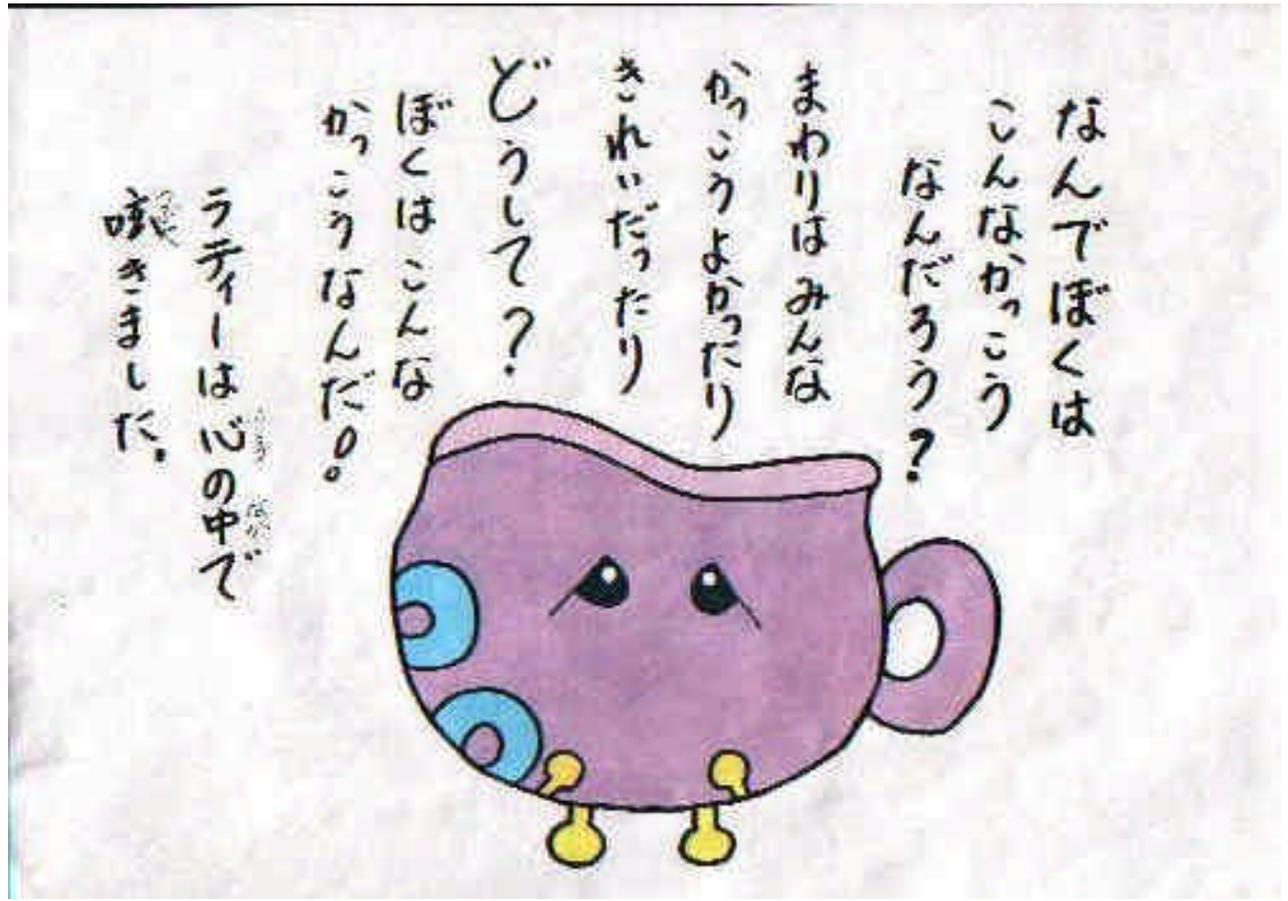
「自分の心が喜ぶことをお互い大切にしようね」今は卓球かな？と俊之君。

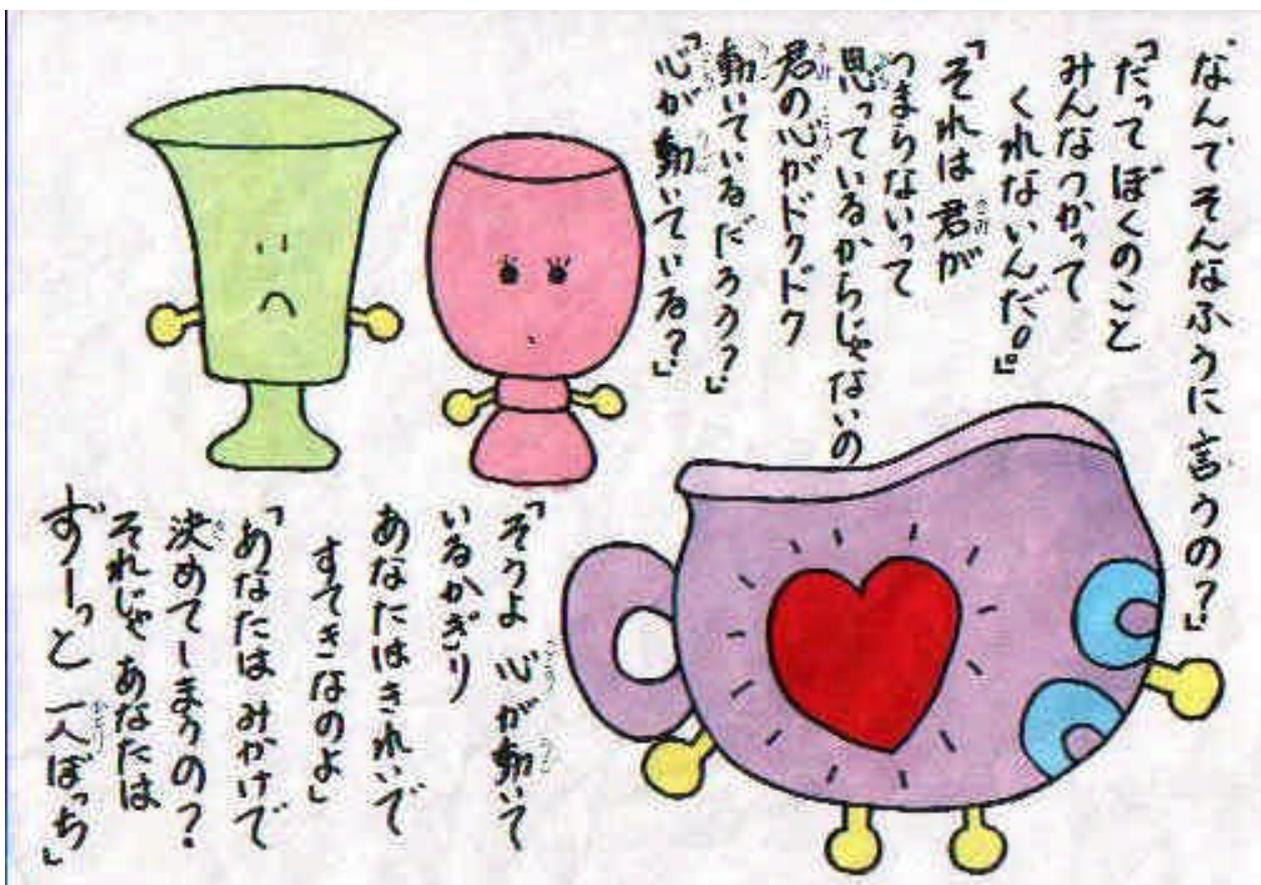
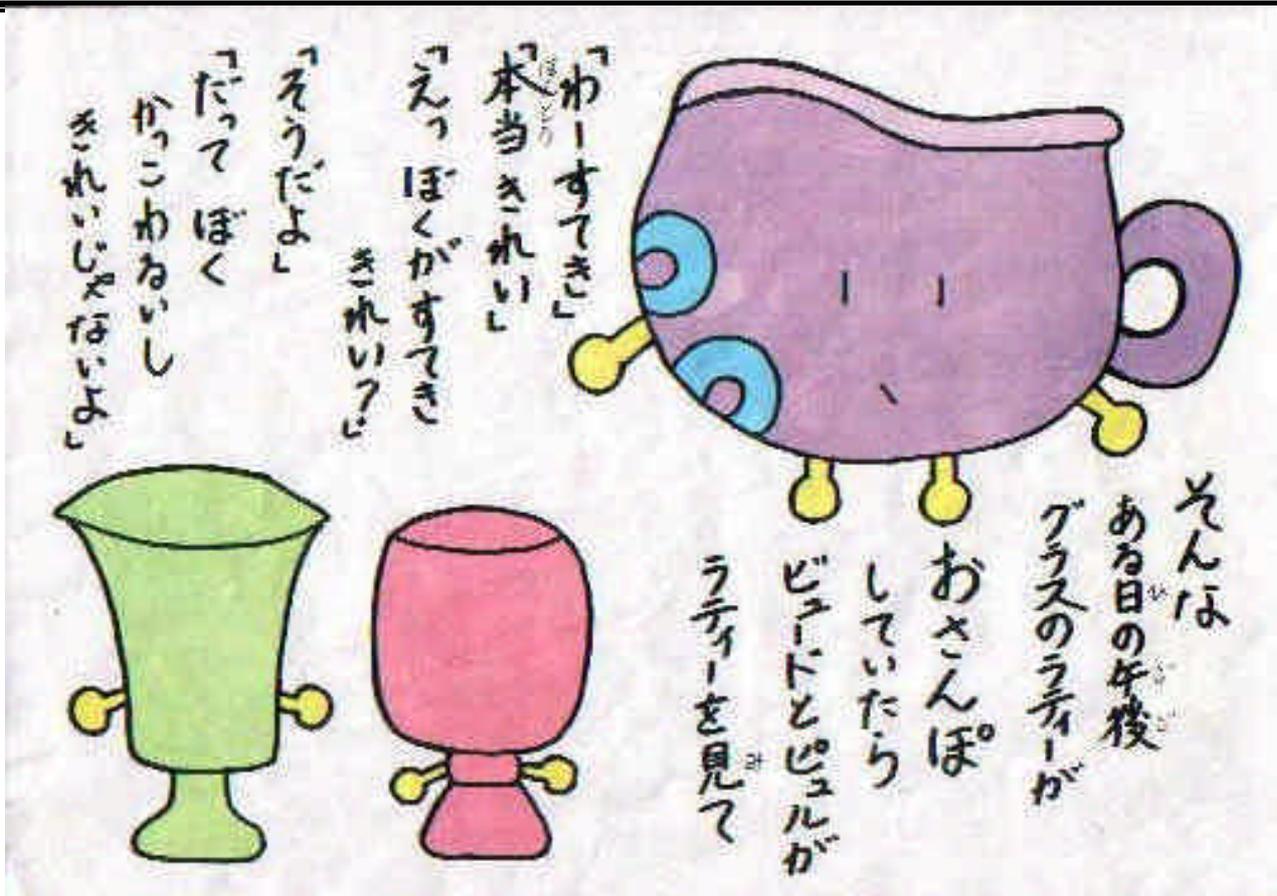
「えがお」の作者、増田詩織さんは私の友人のお子さんで我が家に遊びにきていた方です。詩織さんのお兄さんは卓球が得意で、卓球の好きな俊之君をよく覚えて、県大会でばったり2人は会ったそうです。俊之君はそのことを本当に嬉しそうに何度も私に話をしたものです。

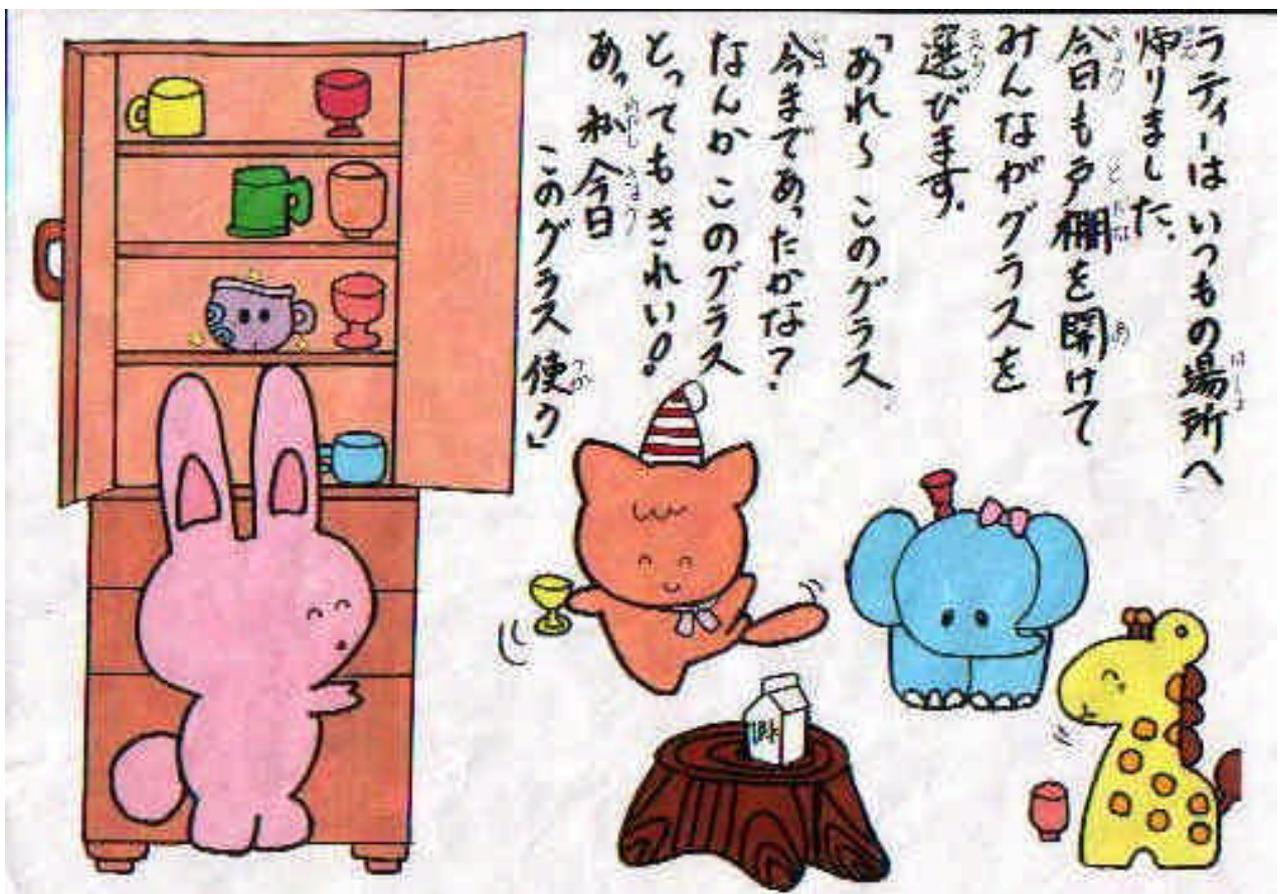
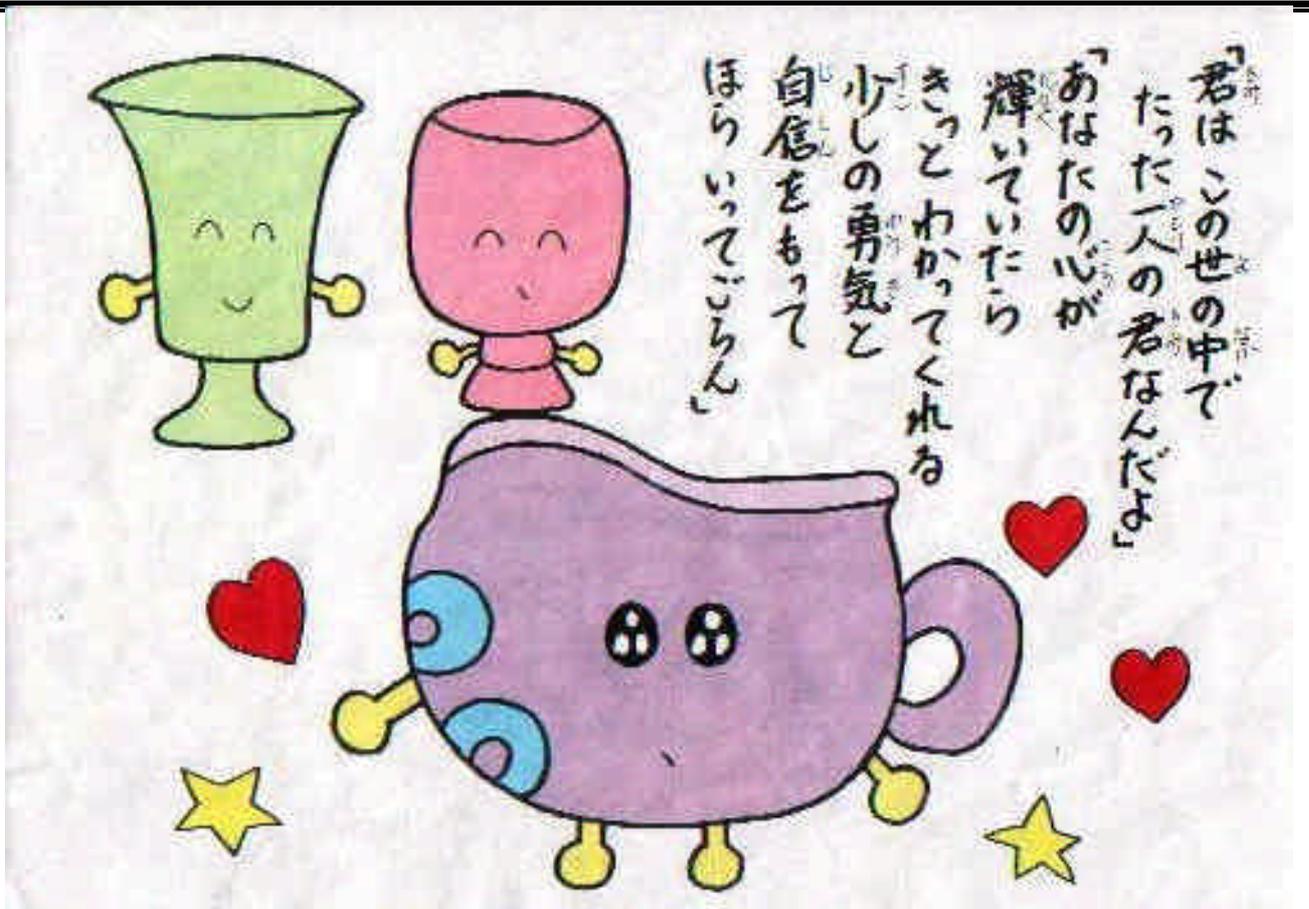
「えがお」を読むと、子供頃あまり笑顔を見せなかった彼が、成長するにつけ、大きな声と笑顔が印象的になるほど、明るくなっていた俊之君を思い出します。

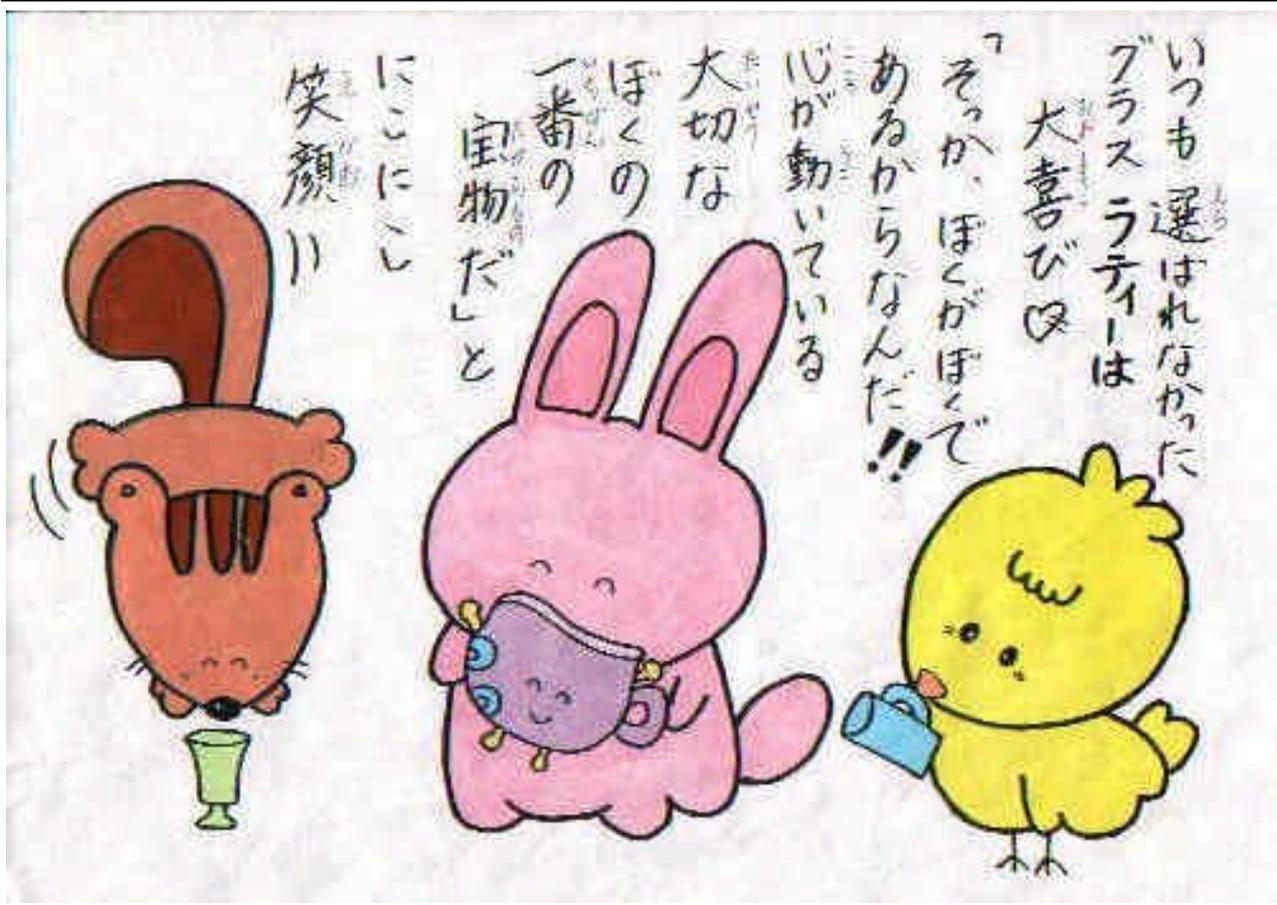
彼は、きっと笑顔のもとをくださる方々に囲まれ、幸せな時を過ごせたと私に伝えてくださった絵本です。



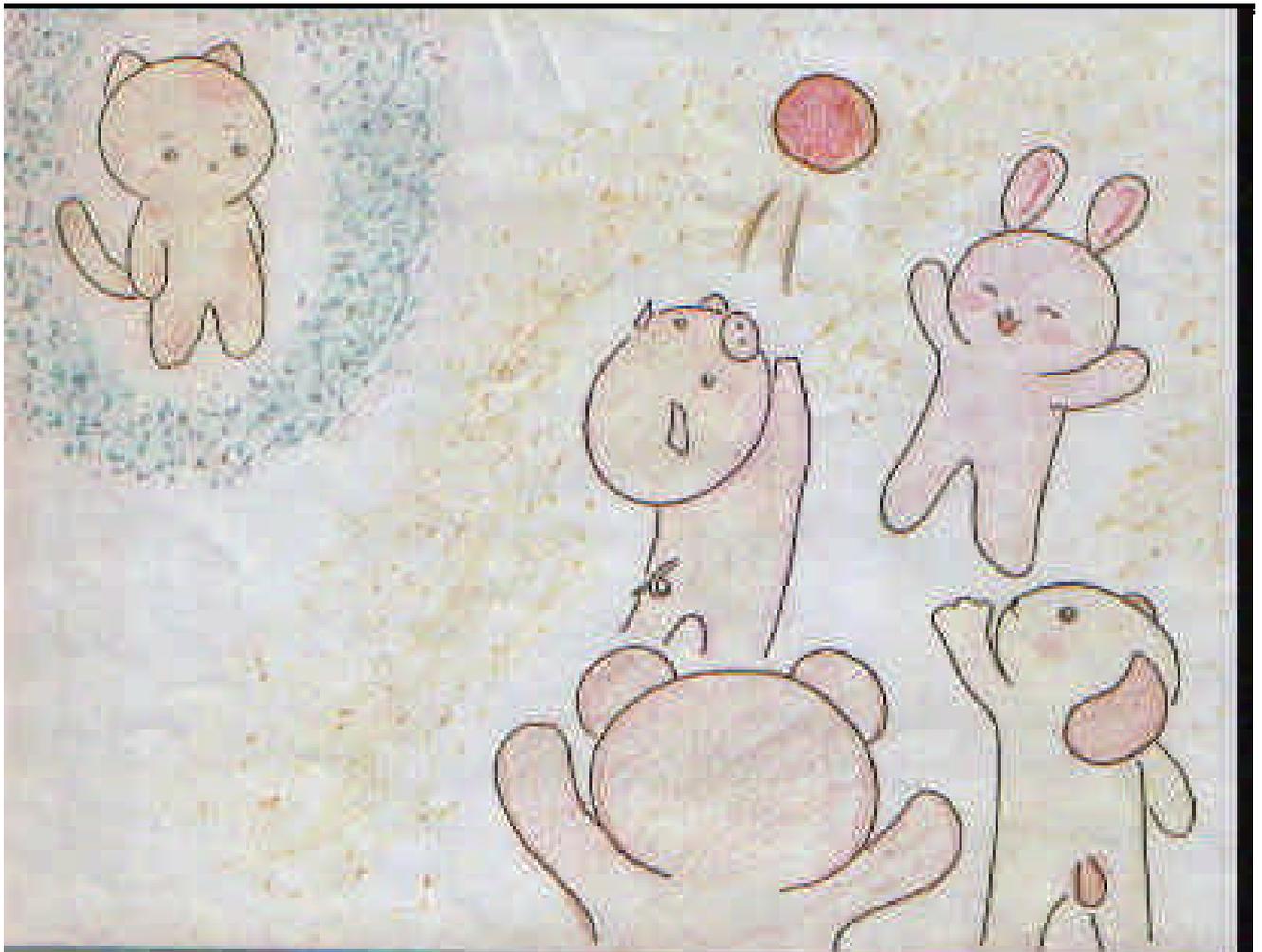








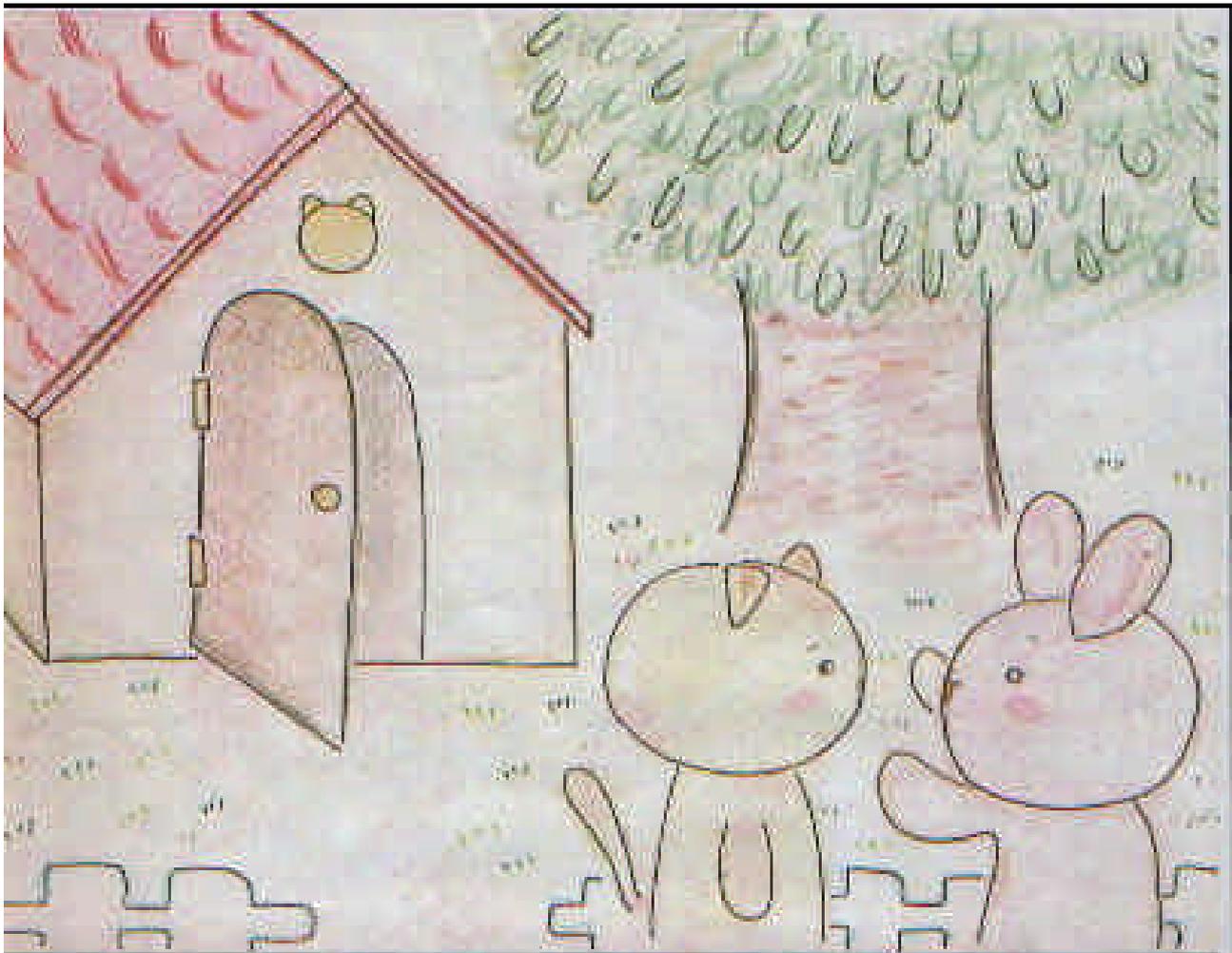




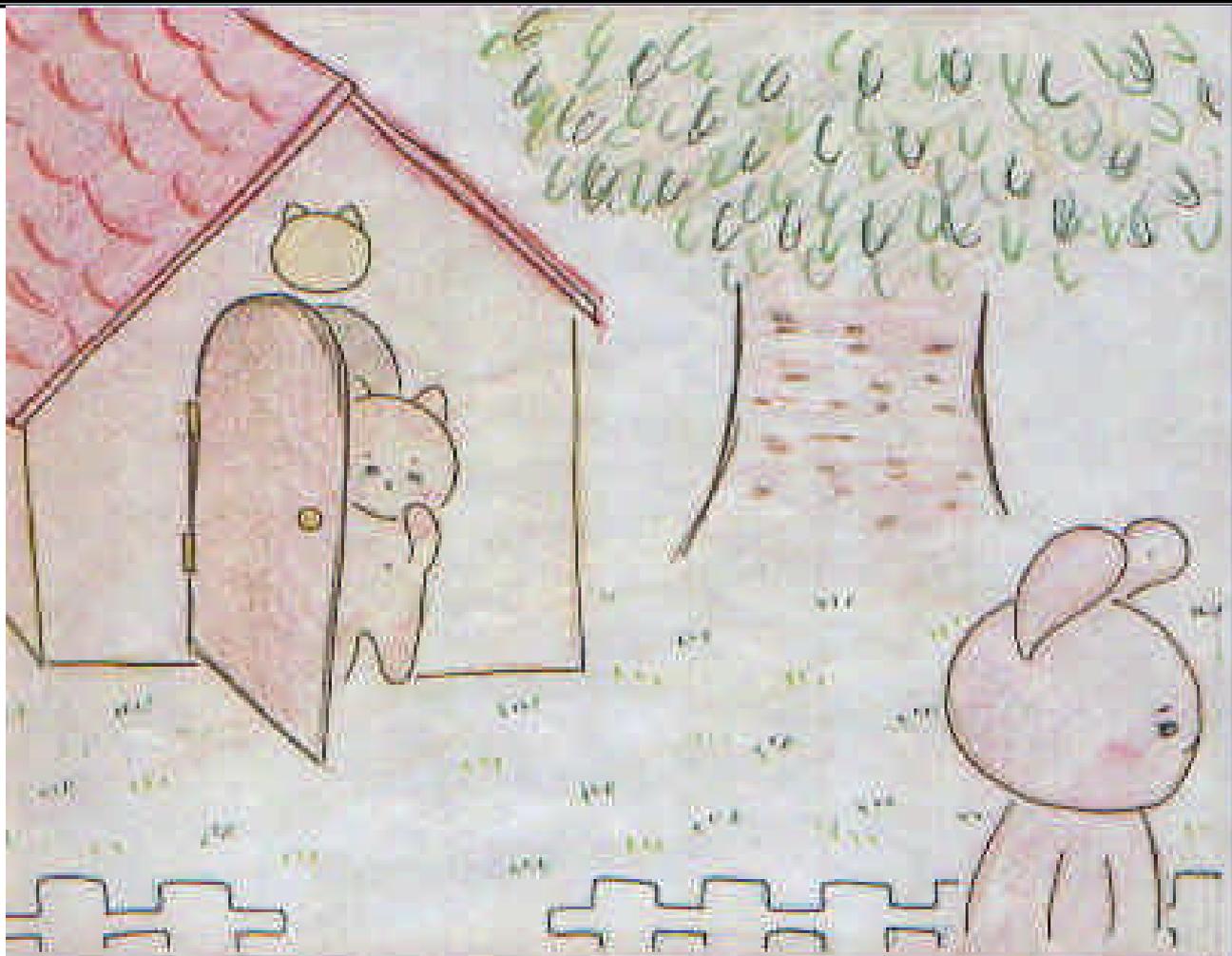
あるところに なきむしな とぬこがいました。
とぬこは いつも ひとひぼちでして。
「ぼくも みんなを いっしょに あそびたいなあ」
ないてばかりの とぬこは いつのまにか われうとことが
できなくなってしまったのです。



「わたしは、ほぐとさんが みんなを おもいでくれるよね」
とねえは みんなに 言うのね。それが、とねえが
そのうち、とねえも びびり始めました。

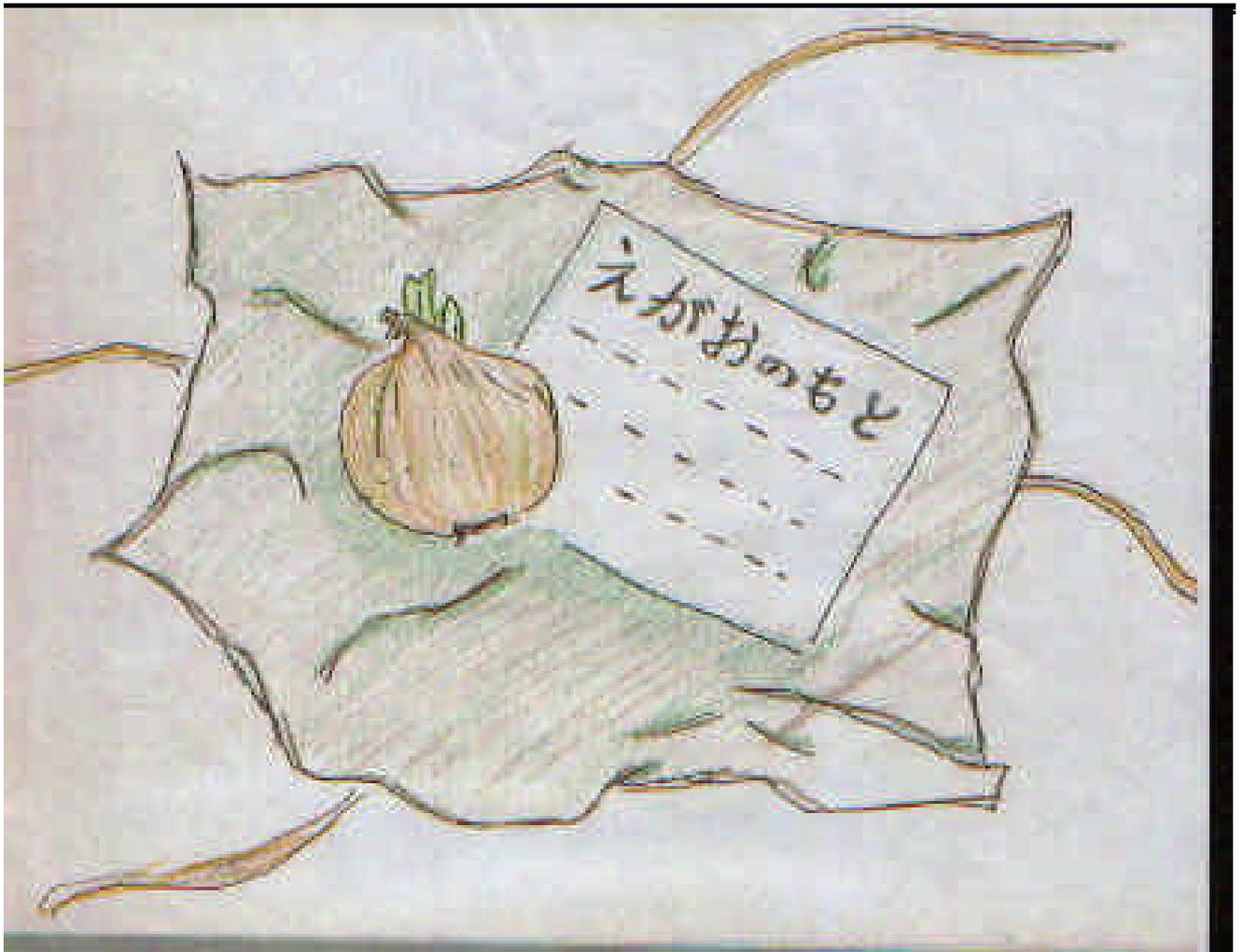


そんなあさひ、こねこのいえに うさぎが たずねてきました。
 「こねこくん、おうちにはお母さんがいないで、わっしょい
 おととで あそびましょ」
 こねこが おうと いえの なかから でてこないので
 しんぱいして きてくれたのです。
 こねこは うれしくて たまりませんでした。
 でも、い。

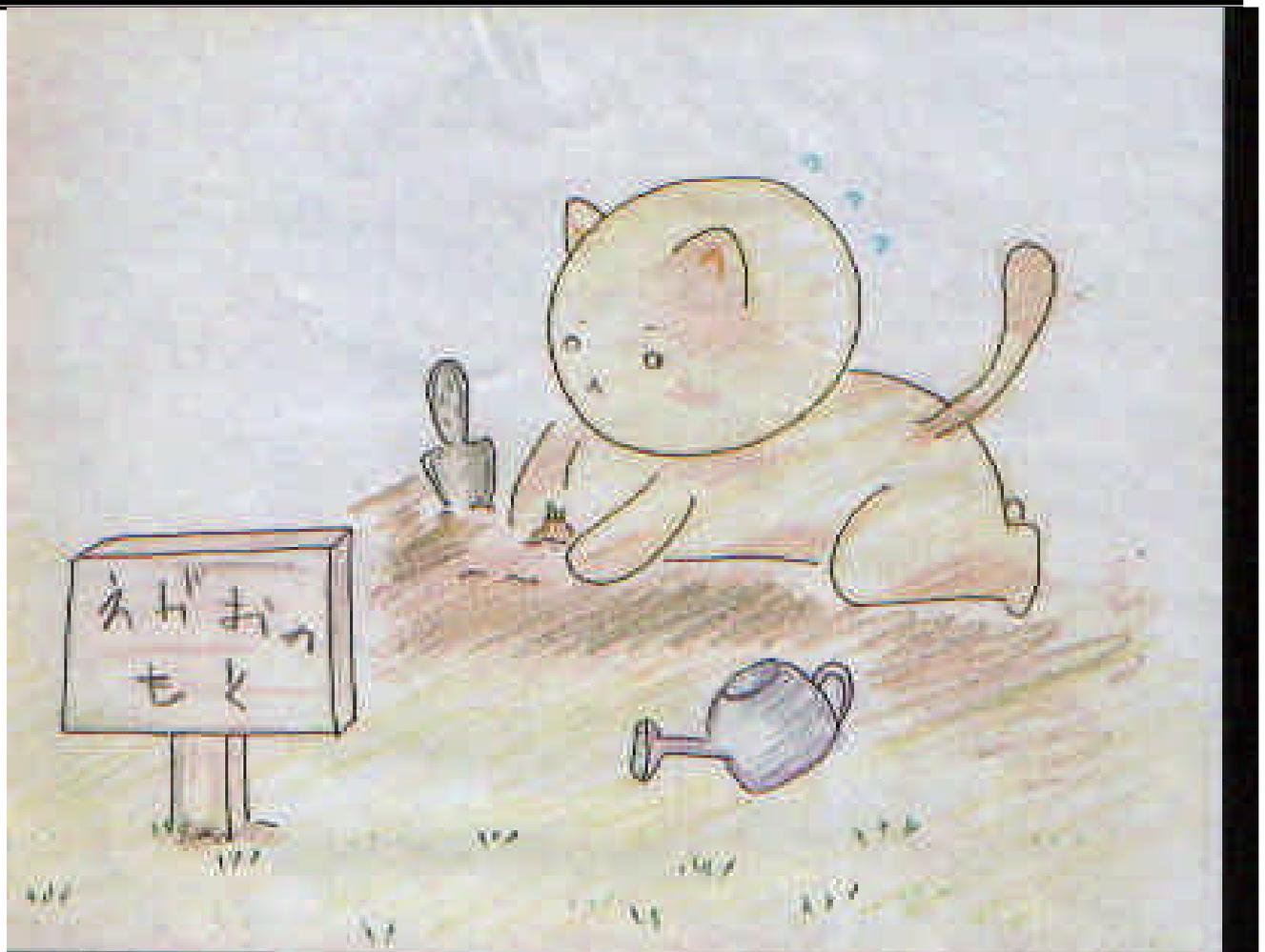


「ぼく あとぼないよ！ たって ぼく ぼく
わらえななんだもん！！」
こねこは うさぎに きらり水音が ぶつがったので
つい そんなことを いってしまいました。
そして うさぎが とぼとぼと かえっていきのき みて
こねこは また なくのぞいた。

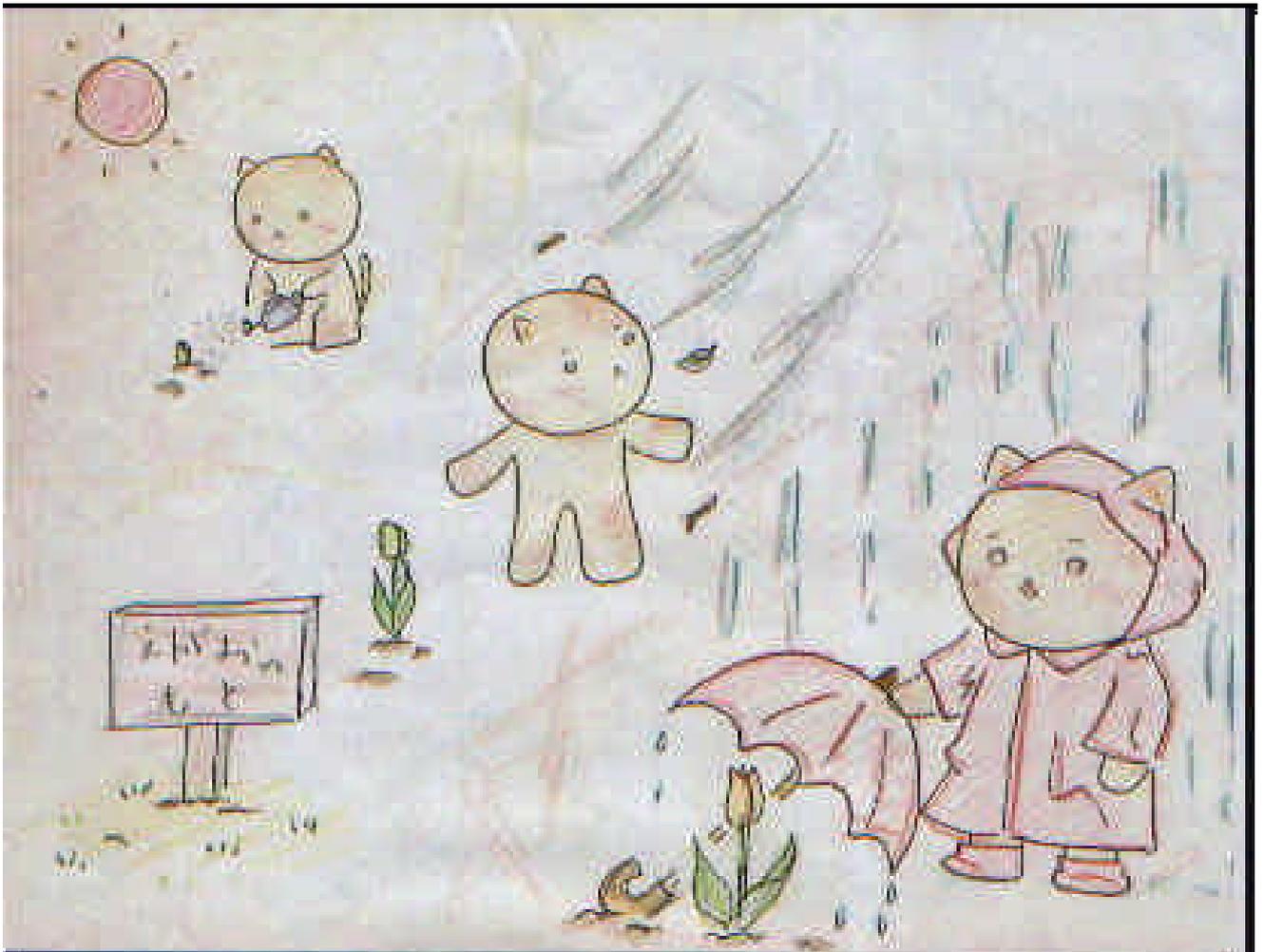




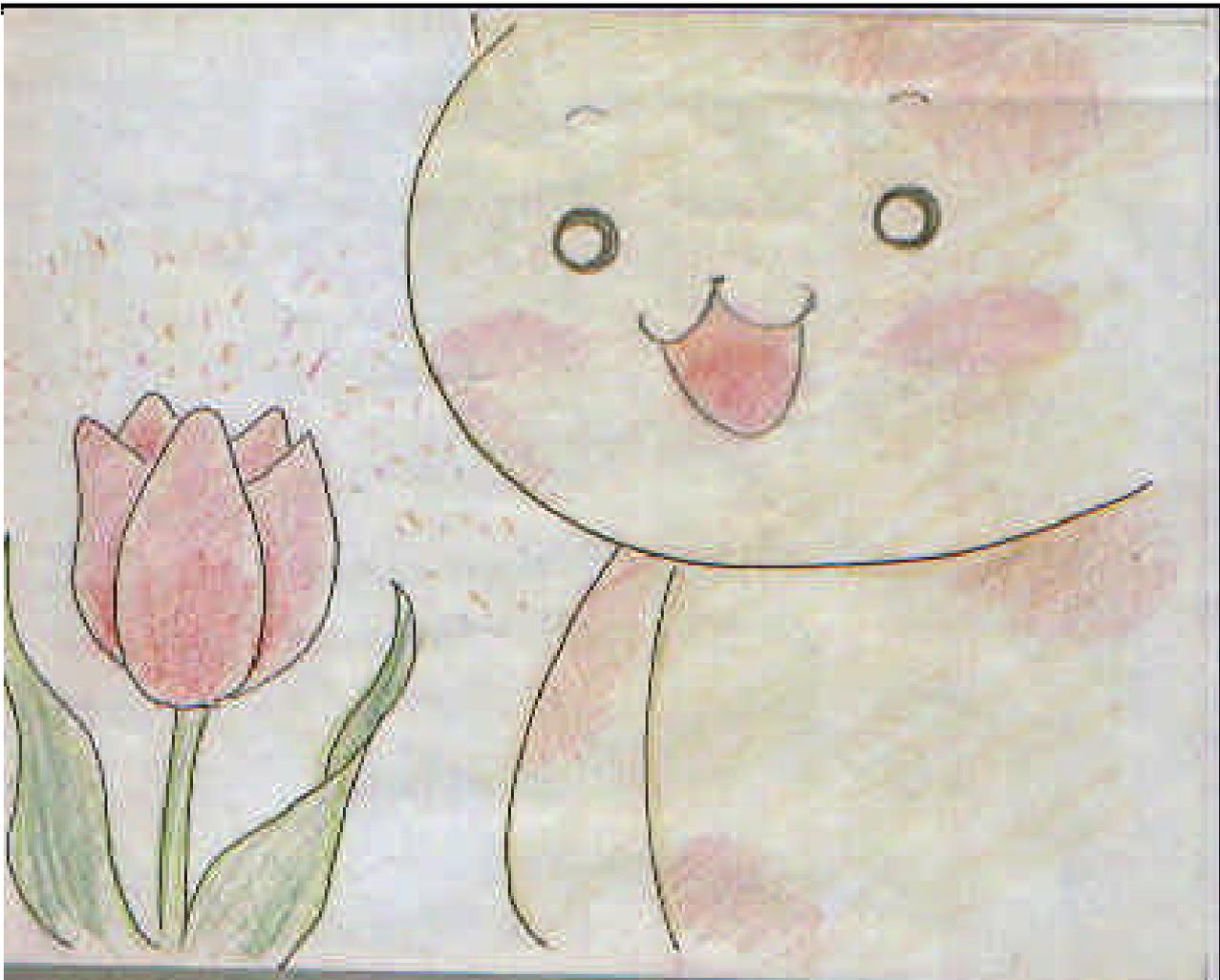
この袋が フツみも あけると、
 ちいさな きゅうこんと てがまが でてきました。
 てがまには 『えがおのもと』 と かけてありました。
 「なにこれ...」これは 『えがおのもと』 ですよ。
 この きゅうこんも だいにじに もたててください。
 はなが さくころ あなたにも きっと
 えがおが もどるでしょう。 だって！



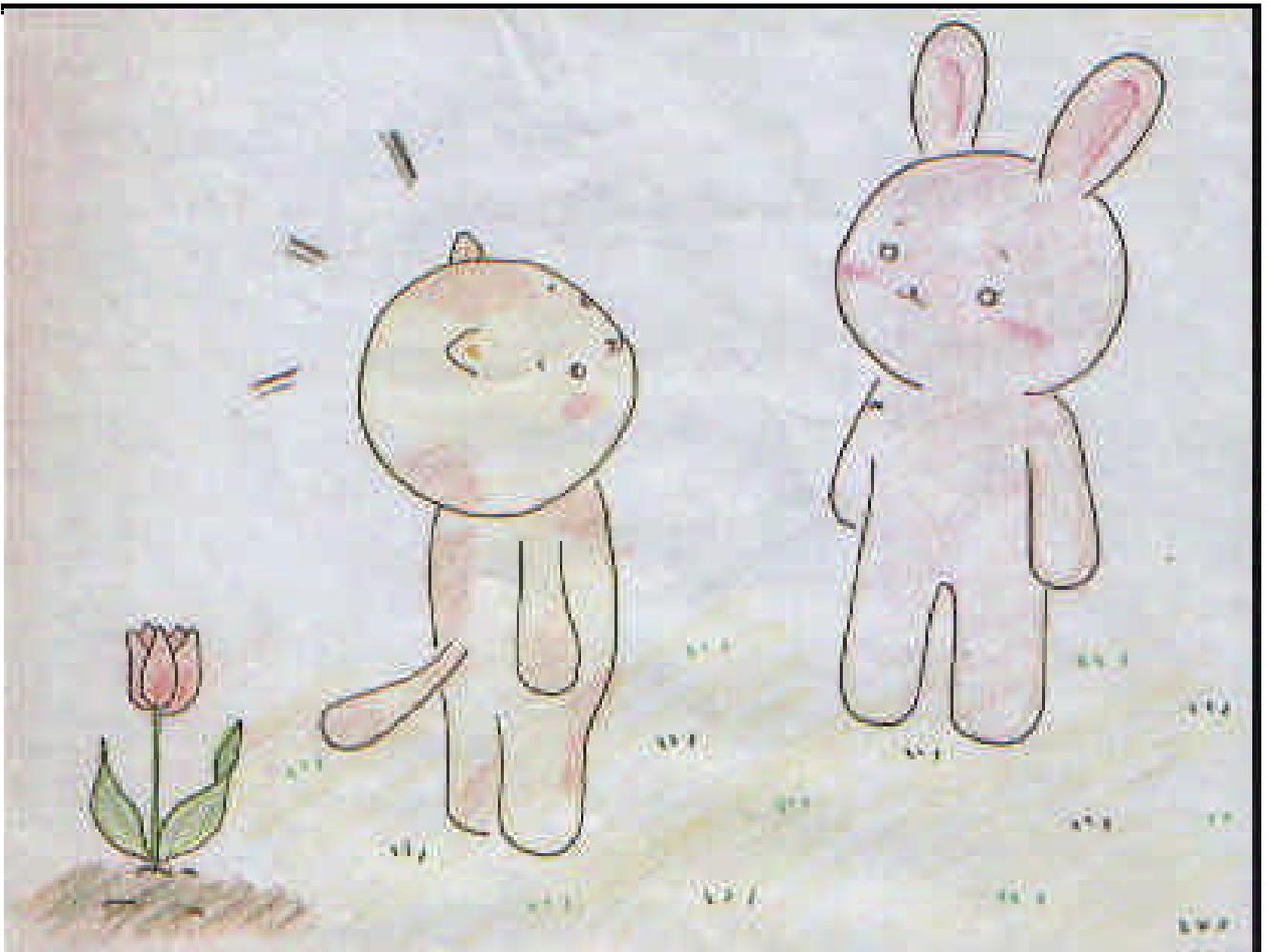
この頃は、さ、よくにねにうえることになりました。
「はやく、おおきくなーれ。おおきくなーれ。
でも、いっただいねが、とどけてくれたんだらう？」



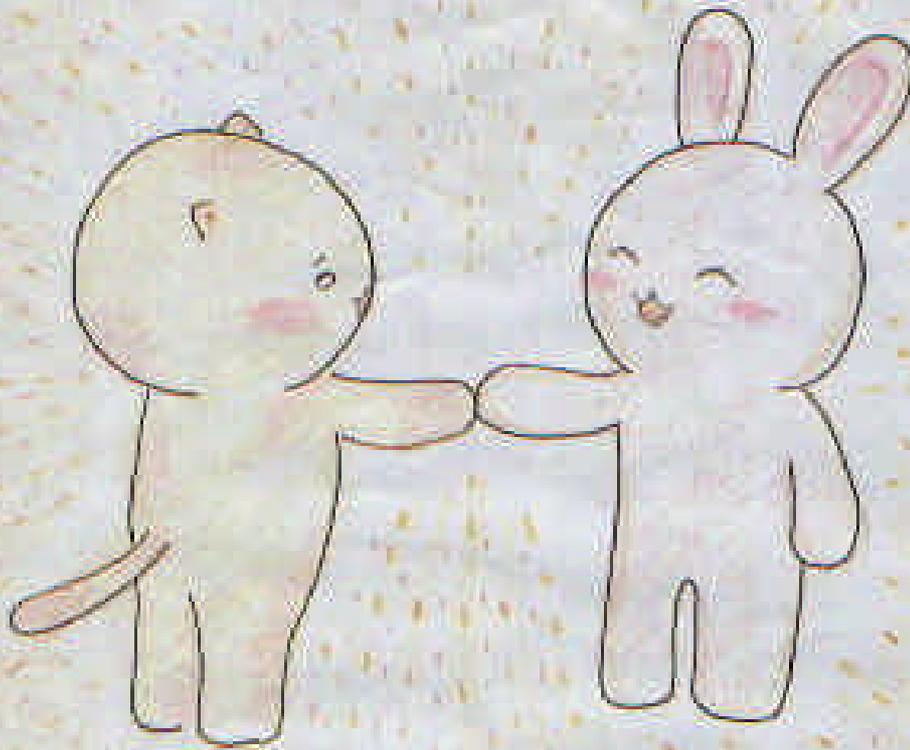
こねこは まいたち みずも あげました。
あめのみち かぜのみち、
まいたち おせぬも しました。
やがて めほ どんどん めがて つぼみは なりました。
として ついに——



「やった！はながさいた！！」
それはかわいらしいチューリップでした。
こねこは おおよろこびです。
「よかったね、こねこくん！」
「えっ??」



ふゆが来ると、まこには うさぎが たっていました。
「こねこくん わらって喜ぶのとっても 可愛いな
えがおだよ」
「それじゃあ あの こいつみは...」
どうですか。こいつみのおくりぬしは
こねこも しんばいしていた うさぎだったのです。



「ありがとう、うさぎちゃん。このまゝは ごめんね」
こねこは 可とし て水ながら いいました
「わっしょい、い、あそんでくれる？」
うさぎは えがおで こたえます。
「おちちん!!」

- 5.1 清野知紘 愛称 ちひろちゃん。ベルクの会で知り合った大切な大切な彼の友人です。俊之君を励まし、支えてくださった優しい看護婦を目指した女性です。亡くなる前、携帯で食事あまりしないで働く彼に、食事をするよう伝えと「僕のおかあさんみたいだ」と話したそうです。幸せになってください。
- 5.2 水戸和利 愛称 かつちゃん。俊之君とは、兄弟のように育った大切な大切な友人。前世では本当の兄弟だったかもしれません。それほど、かつちゃんをいつも心配する俊之くんでした。心臓が悪いからと、いつか中林家に連れてきたいと、言っていました。彼が亡くなった時、「なんで僕じゃなかったんだ」と泣いてくださいました。かつちゃん、彼の分まで、生きて幸せになってください。
- 5.3 高橋幸子 愛称 さっちゃん。ちひろちゃんの大親友です。彼とも、いろいろ話をし「恵明の子」でなく家藤俊之として接してくださった優しい、いたわりの心を知っているお嬢さんです。多くの言葉、多くの優しさ私にまでありがとう。追悼集遅れてごめんなさい早く見たかったです。
- 5.4 茂木陽子 元恵明学園職員。中学と高校の6年間を恵明の睦明寮で生活のお世話を頂いた方です。スポーツが得意な彼は、野球大会、卓球大会が楽しみで、きっと一緒に喜んで応援して下さった事と思います。彼の人に優しく、人を和ませてくれる、だらしないけど憎めない性格をよくご存知でした。
- 5.5 外尾明子 元恵明学園職員。やはり中学と高校の6年間を恵明の睦明寮で、生活のお世話をしていただいた方です。友達のような文面からしても音楽が好きだった彼に、きっと寄り添って生きていてくださったのだと思いました。
- 5.6 越石新之助 中林家でいつもいつも大騒ぎして遊んでいた稲田堤の友人です。サーカスや陶芸家の家など数えきれないほどいろいろなところへ、一緒に行きました。中野の無国籍料理レストランで食事をし、食べ盛りの男の子3人で、山のように食べて、お会計の時、私がお財布を忘れて・・。悪夢のような楽しい思い出。働くようになり仕事に悩む俊之君は、よく相談をしていたそうです。おばちゃんには、言わないで。心配するから」と話していたそうです。彼は、私に黙っていたことを、とても後悔していました。新之助君。だから、俊之君は安心して、本音を話していたのだと思います。
- 吉田香織 私の友人の娘さんです。我が家で知り合い、交友を深めていきました。遺品のなかに、かおりちゃんからの手紙がありました。中は読んでいませんが、中林家だけでなく俊之君と話をしていたのだと思います。嬉しかった。お正月や夏休み、かおりちゃんの明るい笑い声と俊之君の騒ぐ声が聞こえてきます。

5.7 中林響子 私の娘。彼女が物心ついたときから俊之君と一緒にでした。俊之君が我が家に来ると、日常忙しい生活を過ごす私は、遊びに出かけ、それが私にとっても、子供と過ごせる大切な時間でした。そのうち、響子も何処へ行くのか楽しみでいつも彼を心待ちしていました。俊之君は「響子！響子！」と、まるで妹を呼ぶようになっていきました。スキーに行ったペンションで、兄弟のように3人でお腹をかかえて笑っていた光景が、今でも浮かびます。

中林創造 俊之君を我が家に導いた私の息子。高校時代ベースに魅せられた創造は、友たちにベースマンになりたいと言ったそうです。皆大笑いして否定したそうですが、俊之君だけは、「創造ならなれるよ。頑張れ」と応援したそうです。
彼は、今ベースマンになり、仕事をしています。彼の死に、教えられ自分らしく生きていこうと決心したひとりです。

中林たまこ 発行人

5.8 東京モダンプレイボーイズ

大学時代の友人たちとバンドを組み社会人になった今も、音楽活動を仕事の暇に楽しんでいる私のバンド。学生時代と変わらず私の家には、いつも彼ら来ていました。俊之君には、我が家の子供たちとわけ隔てなく接してくれました。

5.9 ベルクの登山会のメッセージ集

善波裕美子 高橋昌一 室井聡 高橋幸子



俊へ

FLOWER BLOSSOMS

あなたが遠い所へ行ってしまうから1年かたとうと
 していますね。先日私は、あなたがなれなかった20歳に
 なりました。20歳になっても19歳の時とはあまり変わら
 ないけれど、ただ1つ違うのはあなたがいらないこと。

あなたは20歳の誕生日を心待ちにしていたね。

「早く誕生日来ないかなあー。携帯電話変えたいのに、
 なんて言ってたよね？これから先、やりたいことや行きたい
 所がたくさんあったのに悔しいよね？」

私もすごく悔しいよ。ずっとあなたと一緒にいたかったから。

最後に聞いたあなたの声はとても優しく、いつもと
 何も変わりなかった。私が「会いたい」と言ったら、
 「俺も会いたい。また明日電話するから。」と言ってくれた
 あなたの声は、今でもはっきり耳に残っています。

あなたが遠くへ行った時、私も一緒に連れて行って
 欲しかった。でも、今は行かなくて良かったと思う。

あなたのことをいつも思っている今が幸せだから...

もう二度と会えなくて寂しいけれど、あなたがそばで
 見守っていてくれると信じているから、いつも笑顔で
 頑張るね。

これから先、私に好きな人ができたとしてもあなたの
 ことは一生忘れないから、私のことをずっと見守って
 いて下さい。

知紘

僕が君と出会ってから約10年。
そして君と別れて約1年。

君は今、どこで何をしているのでしょうか。

君は、だいたい何も言わずに、突然、どこかへ行ってしまった。

の声
沢山の人の悲しみを君は知っていますか？
沢山の人の悲しみの泣きを君は知っていますか？
今まで君に出会った全ての人は、この別れに何を思ったかを知っていますか？
そして君は何を思ってどこへ旅だったのですか！……



あの別れの日から1年。今はみんないつもと
~~変わらない~~ かわりのない日々を送るけど。
何か心がホッカリと空いているような、何か
かたまりない感じがする。

何もかわらないと様だけど ~~今~~今は君がいらない。
足りない物はその声かもしない。

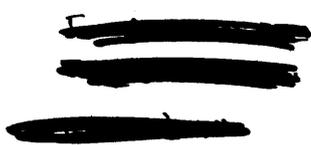
今思えば君との別れは必然的な事だったの
かもしない。

人はこの世に生を受けて必ずいつか死に至
らなければいけない運命をたどる中で、ほんの少
し遅早かただけなのかもしない。

もしかしたら僕の身寄りになったのかもしない。
頭の中ではいろいろめぐりけど今、ここに君が
いない事を痛感する時がきこくみた。3つ。

その時に、1つして目をそらすずに現実をじっと
見つめていたい。

今まで君からもらった沢山の思い出を胸に……
君にはとどかないだろうこの声で言いたい。



「今までのすばらしい思い出をありがとう」
僕は君のこころの未来が良き日々で
あそびを願う。

by 三戸和利

「かんばんって! かんばんろう!」

高橋幸子

「幸子. . . あのね. . . あのね. . . あのね. . .
家藤くんがね. . . 死んじゃった.」
その声は今にも消えてしまいそうな泣き声だった。
勿論、信じるはずもなく私は何の冗談かと本当にそう思った。

人の死ってというのは今まで身近にはなく理解が出来ない。
心臓が止まるってというのはどういうこと?
看護学生でありながら本当に分からないのだった。

家藤くんは昔、おばあちゃんが植物人間と呼ばれる状態になった時
医師から安楽死のことを聞いた。
そのおばあちゃんは家藤くんにとって唯一、身近にいる肉親だった。
医師から入院費のこと等が話された。
「俺が学生じゃなくて社会人だったら良かったんだ。」
安楽死を選ばざるをえなかったと言う家藤くんは悔やんでた。

私はただの一度だって「安楽死」と呼ばれているものを
安楽だと思ったことはない。
沢山のいい思い出、いい出会いを経験して家族や好きな人に見守られながら
自宅で人間らしくそのままの姿で逝く。まだこっちの方が安楽死と言える。
身体に管を必要なだけ通し、延命装置につないで
その延命装置のスイッチを切る. . . それのどこが安楽死なんだろうと
思う。

家藤くん、あなただってそう思ったでしょ?
あなたはおばあちゃんを亡くした時から俺は独りぼっちなんだって
よく言ってたね。

あの告別式、見た?
あんんなに沢山の人が来て、あんんなに沢山の人が泣いてた。
どこが独りぼっちなのさ?
私なんか二日間も泣きっぱなしだったよ。頭が、ガンガンしてもう泣くのは
よそうって決心しても、止まんなかったよ、涙が。
こんだけ泣かしておいて「俺は独りぼっちなんだ。」なんて言わせない。
あなたは生まれた時から死ぬまで一秒たりとも独りぼっちにはなっていないよ。

生きてる時って守られているのに気が付かないんだよ。
誰かに何かに守られているんだよね。
だからきっと頑張れる時があるんだよ。

残された私達はこれからも生きていくよ。
時々、何かに負けそうになりながらも生きていく。
私は家藤くんの分まで生きるね、なんてこと言えない。
家藤くんの人生、背負えない。
だけど一生懸命に生きるよ。
今まで以上にもっと遮二無二生きて生きて生きまくる。

二十日に家藤くんの夢を見た。
なぜか私の部屋の本棚の前に立ってた。
私は家藤くんに抱きついたんだ。
切なかったから、悲しかったから、逝って欲しくなかったから。
家藤くんも抱き返してくれた。
その時の感覚は、.. 恋愛とは違って
友情愛とも違って……言うなれば人間愛だったね。

その時は悲しくて仕方なかったけど
今になってそれが励みになっている。
本人に励まされるっていうのも可らしいけど
あー、こりゃ頑張れるって気になってきた。

悲しくて、悲しくて、泣いても泣いても泣ききれなかった。
それは勿論、私だけじゃない。
私の友達、Cだってそうだよ。

私は今、あなたが心配。
傷が大きすぎたと思ってる。
でも、何回も言っててしつこいと思うだろうけど
頑張って、踏ん張ることが今一番、大事だと思う。
うまく言えない私は無力だけど
でもね、心底、頑張るって欲しいと思ってるんだ。

一度は恨みに恨んだ神様。
あなたは存在しないと思った。
でも、あまりにも私が無力だから力を貸して欲しいんです。

言葉には出さず、ひたすら悲しんでいるCに幸せを下さい。
心からの笑顔を下さい。
どうにもならない悲しみを身体全体で受けているCに元気を下さい。
お願いします.....

FLOWER CHAINS ARE SWEET.

1

忘れないよ。

白い歯を むき出しにして 屈託のない笑顔。

黒い肌に つながりそうな リリしい眉毛。

あだ名は バンコ。

時々 どもっちゃう 話し方。

オレの発音 ちよっと みんなと違っていたよね。

中学の頃は 私より背が低かったのに

いつの間にか 追い越して

「お姉さん 小さくなったね。」って

私の頭も ポンポン たたいてた。

“よしよし”と まるで 子供扱いて。

FLOWER CHAINS ARE SWEET.

2

そういえば 家ちゃんに 教えてもらったことって

たくさん あるな。

卓球も バスケットのダンクシュートも

ゲームも スケートも ダンスも

B-2の歌も ドラゴンボールの写し絵も

とうもろこし や メロンの 育て方も

なかなか 役に立つものばかりだったね、ありがとう。

思い出すよ。

毎晩のように 寝言、はっきりしゃべるから

ちよっと怖かったな。

それから 寝坊の常習犯。

FLOWER CHAINS ARE SWEET.

3

タンスの引き出しは いつも少し開いていて
 机のまわりは物が散乱し。
 だらしないことでの注意は NO.1 だったかも。
 それでも人に好かれていたのは
 温和で優しい性格だからこそ。
 思いのほか女の子にモテていたのも納得。
 食事の時は大きな口でムシャムシャほうばり
 なぜかよくこぼしてたっけ。
 好きだったマヨネーズごはん。
 「食べる物がなくてマヨネーズをごはんにか
 けて食べたら うまかったんだ。」って。

FLOWER CHAINS ARE SWEET.

4

でもそれは お母さんがいなくなった時のことを
 思い出す 味でもあったんだよね。
 忘れないで。
 みんなが悲しかったこと。
 泣いて 家ちゃんを見届けたこと。
 いつまでも家ちゃんのことを 想っている人たちが
 いるということ。

茂木 陽子

いえちゃん

そっちの世界はどう？快適に暮らしてる？
 きっといえちゃんのことだから、新しい友達も
 作って楽しく過ごしてるの？ほ・・・それから
 いつもの様に、のん気に過ごしてるでしょ？

昨年2のアルバム出たでしょ？いえちゃん
 が、フイ曲だよ。マ・教えてくれた曲、結
 構気に入って聞いてるよ。あの時、2人して
 英語読めなくて笑ったよお。その後に出た
 2枚目の方もなかなか良かったよ。2のCD聞

く時は、いえちゃんにも園まで来るように、結構大きい音でかけるんだけど、その前妹に、「うるさい!!」って怒られちゃった。相変わらず妹にやられま子ね。

私、今年の4月から、保育園の先生やっまるとだよ。「先生!!」って呼ばれま子んだよ。栗ちゃんうざしよ!!「先生」だよ。しかも園にまびっくりするから、1才のクラスなの。宇宙人みたいなのがかん人もいま、睦明にいた時とは、全々違ってたから、もしかしま

2023年 7月10日 20x20

どっかで、いえちゃん見ても笑ってない？あんな小さい子に(3)リまおされま子私の姿を見ま・・いえちゃんと、もういうなんでもない普通の話しか出来なくなっま、もうすぐが一年にな子お、笑いながら、よく話してたよお。最後に私の携帯に電話をくれ居時の声がまだ近くで聞まえ子ようま・・いえちゃんには、居くさん、たくさん色々な事を教えまもらった。これから、まだまだ長いつき合いが出来子と思っまたのに・・いえちゃんの

事ずっと、ずっとと忘れたいよ。たくさんの想
い出、たくさんの優しさ、ありがとう。いえ
ちやんに出逢えた事、感謝します。

外尾

箱根恵明学園

元保母

コクヨ ケー10 20×20

アレから一年と少しが流れた。こう見てみると、オレ達が会ってから、随分時がたった。

つい前まで子供だったが、もう皆大人になっている。

それは、自分も例外ではないと思う。でも、実感が無い、他人から見る自分ってのは、いつもわからんもんだ。(新之助)

“一秒でも誰かが「頑張ってるね。」なんて応援してくれたら、そのことを一生の宝として生きるよ”(香織)

家籐君と出会ってから、オレは、家籐君と数多くのことを学び、お互い成長してきた。色々相談とかもしたし、バカみたい遊んだ事もあった。

今はもう家籐君に会えないけれども、家籐君が重ねてきた経験を少しでも自分の心にきざみ、自分の力として、ガンガン使って行きたい。

それがオレが出来る一番だと思う。(新之助)

私も家籐くんとおんなじ二十才になりました。これからやりたいこととか、夢とかいっぱいある。いっぱいありすぎて、どれくらいかなうかは、分からないけれど、とりあえず自分にできる限りの事はしてみるつもりだよ。

やらないで後悔するよりはやって後悔する方が言いからさ。(香織)

まさかこの世からいなくなるなんて思いもしなかった。
いろんな事が思い出になっていく。
その時々を悔いなく楽しんで過ごす事がいかに大事か

人との出会いはすごい。
中林家は家藤君との出会いは本当に大きい。
うちの家族に残したものは一生の宝だ。
ありがとう。
思い出は一生の財産。
一緒に過ごした時を家族と分かち合いながら、
今を精一杯生きて、生きて、生きていきます。
夢で会いましょう

中林響子

今でも君の事時々思い出すよ。
つらい時いつも見守ってくれた。
つまずいた時に肩を貸してくれたよね。
何も無い僕に。
つらいときこそ笑えばいいといてくれた君の心は
今でも僕の心にあるよ。
何もかも笑って許しちゃえ言った言葉は僕の心にあるよ。
遠く遠く離れていても

弱い部分もあっていい、強く生きるのはすごく難しい、
だから僕達は支えあっているんだよって。
嬉しい時一緒に笑ってくれた今の気持ち君に届け。

君の心は今でも僕の心の中にあるよ。
遠く離れていても君の全てが僕の心で生きているんだよ。
どんなに遠く離れていても今の気持ち君に聞こえますか？
いつも近くにいるよ。

つらいときこそ笑えばいいと言ってくれた君の心は
今でも僕の心にあるよ。
何もかも許しちゃえって言ってくれた言葉は
今でも僕の心の中にあるよ。
遠く遠く離れていても。

中林 創造

家藤君。俊之君。俊之。

俊之の呼び名は、私の中ではこんな風が変わっていきました。

家藤君。

それは稲田堤に我が家に移り住み、始めて息子が我が家に連れてきた頃の呼び名です。

俊之君。

恵明から初めて我が家に遊びに来た頃の呼び名です。

俊之。

いつからか、全く覚えていません。いつの間にか彼は、私の中で俊之になっていました。

この呼び名と共に、溢れんばかりの思い出を、どうしたらいいのか、7 回忌を迎えるというのに、全くわかりません。

でも、ひとつひとつ私はしっかりと昨日のことに思い出すことができます。

俊之に会いたくなったら、その思い出を少しずつこれから書き溜めていくことにしましょう。

俊之が、私に、そして私の家族に残してくれた宝物をしっかりと見つめ直すことは、自分の人生をより深く幸せなものにしていく、そんな気がしてなりません。

1999 年の夏、俊之は息子創造と北海道へ母親を尋ねる計画をしていました。私は、「もっと辛いことが、起こるかも知れないよ。」と躊躇しましたが、俊之は「おばちゃん、会わないとなんだか落ち着かないんだよね」と話していました。「幸せか確かめたい」「何故居なくなったかおとなにしか分からない理由も知りたい」とも。

「おとなしか分からない理由」

私は母親が居なくなり、泣く事もせず、ぼーと我が家に来た幼い俊之をそこに重ねていました。何も食べていない俊之に即席でラーメンを作り、「美味しい」と言ったきり、黙って食べていた俊之は「なんでおかあさん居なくなったんだろう」と何の表情も変えず、ぼつりと言いました。

その時、私はなんと言ったらいいのか分からず、「おとなにはおとなしか分からない理由があるものなのよ」と、俊之は 19 歳の死を迎えるまで、私が苦し紛れに無責任に言った言葉、長い間心の中に留めていたのでした。

言いようのない刹那さがこみ上げてきます。

今私は俊之のおかあさんに伝えたい。

「幸せに生きてください」。なぜなら、俊之がもっとも気にかけていたことであり、それを見届けたかったから、彼は北海道へ行こうとしていたのですから。

いつか、お会いできますように。子供の頃の話が聞けますように。今でも、心の中に俊之を感じている私の子供たちにも会っていただきたい。

一緒にいることができなかつた空白の時間を少しでも埋めるため

私の知る限りの俊之を伝えたい。

そして生まれた時からあまりに短すぎた 19 年間で、しっかりおかあさんの心の中に刻んであげて欲しい。

それは、みんなの俊之をこの世に送り出してくれた、おかあさんにしかできないことだから。

中林たまこ

東京モダンプレイボーイズと俊之君

俊之に言ったことがあります。
恵明で東京モダンプレイボーイズがコンサートしようかと。
俊之は、おじちゃん、おばちゃんたちが演奏したら、「なんだか恥ずかしいよ」。
「そうか、俊之が恥ずかしいなら可愛いそうだね。そうなんだよね。響子も恥ずかしくて見ては
いられないって言うのよ。身内は恥ずかしいんだよね。そういうの」と私。
「いつかね。今は遠慮しとく」と俊之。
こんな言葉が出るほど、バンド仲間は、会えば「おう! 元気か!」。お正月にはお年玉を俊之
君にも渡してくれるほど、私の子供達と全く同じに接してくれました。バンド仲間と囲む食事は
いつも皆でわいわい、いっぱい笑って、涙がでるほど、笑って。別れる時は「頑張るんだ
ぞ!」と声をかけてくれました。俊之は嬉しそうに「はい」と答えていたものです。
俊之が亡くなり、皆は恵明に行く事を決めました。
それが、1999年6月26日のコンサートでした。
やはり辛いコンサートでした。俊之がいたら、楽しかったのに、と思わずにはられませんで
した。
吾郎先生は白いお花を生けてくださいました。俊之の写真があったような気もするのですが
美しいお花も恵明の庭も、小学校の壁も全く見るできませんでした。
心は涙でいっぱいでした。
コンサートには、俊之の友人たち、我が家で知り合った殆どの方がきてくださいました。

7回忌にあたり前回と全く同じ日、2004年6月26日(土)にコンサートをします。
今度は、しっかり俊之を感じるコンサート内容を思っています。
そして、俊之を皆で思い出してあげたいと思います。
19歳という信じられない速さで、私たちの前から消え、そしてこんなにも深く、人を永遠に愛し
いと思える気持ちを、私たちに育ててくれた俊之に感謝して、穏やかな気持ちでコンサートを
迎えたいと思います。

東京モダンプレイボーイズ vocal TAMAKO

ベルクの登山会のメッセージ

ベルクの会に入った頃の俊之君との会話を思い出します。

俊之君、もう彼女いるでしょ。おばちゃんに教えて、すると恥ずかしそうにうん！と頷く俊之君。そこで私は、「どんな子！どんな子！」。「すごく優しい子なんだ。いつか会わせるから。」と俊之君。

「そうか！そうか！名前は？何処で会ったの？いつでも連れて来て！早く連れて来て！そうだ！今度の小金井で河野さんと愉快的な仲間のジョイントコンサートがあるから、チケット送るから、2人で来て！」ベルクの会で知り合った方でした。

もう何故か嬉しくて、嬉しくて。どんな子なのだろうと想像してはニンマリでした。でも、そのコンサートは、俊之君が亡くなった1ヶ月後、彼女が友達に支えられ聞きに来てくれました。楽屋でお会いした時の涙と悲しさは今も蘇ってきます。辛いコンサートでした。

その後、ベルクの会が障害者の方たちと山登りをする会と知りビックリしました。

昔ベルクの会の人々が、僕を山登りに連れていってくれたんだよ。だから今度は僕が連れて行ってあげるんだ」俊之君の言葉に、優しい心が育っている彼を感じ、この優しさがあれば、この子はもう大丈夫と嬉しく感じていた自分を思い出します。

みんなが カッコイイ 4班!



日	月	火	水	木	金	土
					7	2
3				7		9
10						
17	18	19				
24 31	25 や.と給料 日.	26	27			

ベルクの
登山会

手活さずという加社

心開く社会に友かいる!

期日
1998
平成10年5月17日
兼山合同登山会

高田 邦和

家藤君へ

色の黒いやっちなあ。それが、君の第一印象。
色が黒いもんだから、笑った時に歯の白さが際だって、人なつっこさがにじみでて。それが、君の笑顔の記憶。

一緒に恵明キャンプに行った時にはまだまだ子供だった君が、青年になってベルククラブの身体障害者協力登山会に参加してくるって聞いた時には、本当に本当に嬉しかったよ。

当日は雨で本格的な身障者登山は出来なかったけど、湯河原の幕山への散策道で、君は実に頼もしげに車イスを引き上げていたっけね。にじみ出る額の汗を、君はタオルで豪快にぬぐっていたっけね。

威勢のいい、兄ちゃんだなあ。元気のいい、若者だなあ。これから叶えたい夢を山ほどかかえているんだろうなあ。本当に健康そうな、健康そうな、健康そうな・・・

家藤くん、本当に健康そうな君だったから、心臓に爆弾をかかえながら生きていたなんて想像もつかなかったよ。

そして、まさかその爆弾が、君がようやく手に入れた自由な時間と収入とで、これから夢をかなえてやろうとしていた矢先に弾けてしまうとは、思ってもみなかったよ。

さぞ、悔しかったろう。さぞ、口惜しかったろう。

20年はあまりにも短すぎて、君の笑顔の記憶がまぶしすぎて、私達の胸も締め付けられるほど悔しい思いでいっぱいです。

でも、祭壇の上で君は、笑っていたね。白い歯をのぞかせて、なつっこいあの笑顔で、笑っていたね。「心配すんなよ、みんな。おれ今度こそ本当の健康を手にして生まれ変わってくるからよ。」

どこに生まれ変わったとしても、家藤くん、君はやっぱり色が黒くて、白い歯をのぞかせた笑顔がまぶしいんだろうな。

でも、今度こそ今度こそ、本当に今度こそ、夢を叶えるための健康を手にした君でありますよう。

さようなら、またね。

山岳集団ベルククラブ 善波裕美子

家藤君のこと

ベルククラブ 高橋 昌一

今日は朝から風が静かに吹いていた。天気予報では28度の予報が出ていたがそんな気配を微塵に感じることも出来ない程の涼しさだ。夏が顔を出し始めるはずなのに。

“ベルククラブで何十年もの間交流を続けている箱根にある恵明学園、その園児の中の一人に家藤君がいた。学園を卒業し、高校も卒業して秦野市内の会社に就職した。前途は洋々としていたはずだ。

彼とはベルククラブのお兄さんとしての付き合い程度であった。やかて娘の幸子達との若者同士の付き合いが始まっていった。ベルククラブ主催の身体障害者登山会にも参加して来た。好青年であった。とても素直で、毎日を一生懸命になって生きている、そんな若者だったに違いない。

そんなある日、幸子の口から出た突然の訃報。—————

若者達に心に突き刺さる命の重さ、瞬いた青春の光。無情。あれから早くも1年近く過ぎた。”

午後から予報通り気温がどんどん上がって来た。冬が終わり、春も過ぎ去りそして初夏が来たのだ。これから梅雨を通り抜けて若者がはじける夏が始まるのだ。

そう若者の夏が来るのだ。悲しむのはもういいのではないのか。若くして散った命、何もせずに散った命に嘆くだけ嘆いたはずだ。だから家藤君の代わりに生きることはもういいのではないのか。彼の命の分まで生きようと思わなくていいのだ。そう、これから自分の人生を自分の命で自分のために生きていかなければいけないのだ。それが若くしてこの世を去った命への礼儀のような気がする。

若者の夏はもう目の前だ。

平成11年5月20日

家藤俊之君へ 哀悼の辞

とても腹立たしい気持ちでいっぱいです。

家藤君が6月20日、心臓発作で突然亡くなりました。享年19歳の若さでした。

恵明学園を卒業し、ベルクの新しい仲間とも出会い、楽しいことをたくさんたくさん経験する前に、死んでしまいました。

悩んだり、楽しんだり、苦しんだり、喜んだり、悲しんだり、好きになったり、好きになられたり、愛したり、愛されたり、することをいっぱい知る前に、僕らの前からいなくなってしまうました。

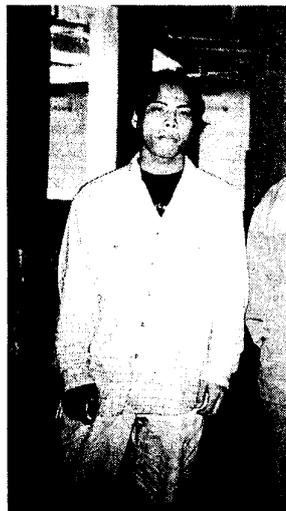
あんなに気のいい、元気のいい若者が、あっという間に死んでしまったことに、腹が立ちます。

運命だよ、の言葉では片づけられない、口惜しさが込み上げてきます。

もともと生きてかかったはずです。
もともと叫びたかったはずです。

でも、悲しいけれどお別れです。
雲の合間から、君のちよつとはにかんだ笑顔が見えます。

さようなら。



山岳集団ベルククラブ

室井聡



家藤俊之さん やすらかに……



6月20日（土）ベルククラブ夢かいチャリティーコンサートの当日の事です。室井さんのところに1本の電話が鳴り響きました。それは恵明学園からの電話でした。恵明学園の卒園生であり、ベルクの登山会にも参加してくれた家藤俊之さん（19才）が突然の心臓発作のため、今朝亡くなったという、たいへん悲しい知らせだったのです。

家藤俊之さんは、恵明学園卒園後、5月17日（日）に行なわれた、かながわゆめ国体参加記念登山会「幕山」に参加して来てくれました。恵明学園の卒園生がベルクの登山会に積極的に自分から参加してくれたのは家藤さんが初めてだったのです。はっきりと自分の意見を言う好青年で「又次回も参加したい」と言う感想文が送られて来ていました。

残念です。残念でなりません。

6月21日（日）恵明学園で告别式が行なわれ、ベルククラブからも数名が参列してまいりました。

心からご冥福をお祈り申し上げます。



「家藤くん へ」

どうにもならない悲しみを知りました。
教えてくれてありがとう. . . なんて言えるほど私は強くありません。
実は何を隠そう、この文章を書けるほど強くもないのです。
この文章の話が来てから、何度も書いて、消して、書いて. . .
どんな文章を書いても、自分では満足できません。

それは、あたりまえの事なんだよね。
家藤くんがこの世にいないのに
その家藤くんの事を文章にするのに満足できる文章が書ける訳ない。

あえて、もう書き直すのはやめようと思います。
結局、満足できる文章は書けっこないんだから。

告別式の日、雨が降った。
私たちの涙が雨に変わったのではなく、誰よりも家藤くんの涙が雨に
なったんだと思うよ。
そう考えると、悔しくて悔しくて泣けてくるけど、でも家藤くんは
もっともっと生きたかったでしょう？
もっと沢山、遊びたかったよね。
ホント、悔しいよね？

でも、雨に打たれながら、私たちも思いっきり悲しかったよ。
神様っていうのが存在するのなら、ぶん殴ってやりたいくらいだった。
その時はそう思った。

でも、神様は家藤くんに結構いいプレゼントをしていた。
心から家藤くんの事を思える人たちとの出逢い。
これは何よりのモンだと思った。
家藤くんの生きる支えだったと思う。

そう考えても神様をブン殴ってやりたいという気持ちは殴ってやりたいに
変わったくらいのもだった。
私の気持ちが神様に感謝するようになるには
家藤くんが今、どういうところにいるのか分からないけど、まず彼を
幸せにすること。そして彼を失って心に穴があいてしまった人たちにも
幸せに生きる力を与える事. . .
そうしてくれるんだったら、神様に感謝するよ。

どんなに幸せになっても家藤くんが亡くなったという事は心の傷として残る。
傷が直っても傷痕は残る。
でも、だから忘れない。
あなたがこの世に存在していて、私たちと生きていた事を忘れないよ。

バイバイ♡

ベルククラブ 高橋幸子（19歳）

ベルクの行先では恵明のキャンプ招待のため車いすの人達や身障者、人達との登山会はやめた事になった。で最初は「僕でも大丈夫なのか?」と心配しました。ですが実際車いすの人を引、張りながら山を登った時大変でしたが普通の山登りでは感じない楽しさを感じた様な気がしました。来年の登山会は雨だけでなく青空の中で登山会が出来ればいいな。来年もぜひ参加したいです。

家藤 俊え



編集後記

多くの方々に優しさをいただきながら、俊之君の7回忌までこの追悼集の発行が遅れたことをお許しください。

言い訳になりますが、パッチワークの1つ1つが集まると、全体は彼の追悼集なのに、残された者たちに「生きる」と俊之君からのメッセージを感じました。

彼と別れから2年目、一度発行をしようと思いました。

諸問題はありましたが、何か印刷に回せない思いにかられていました。

追悼集が、彼の死を自分の体の中に取り込み、より生きていくことを再確認する役割は、皆様のご協力で達成できたのですが、まとめるうちに巻頭言にあるように俊之君のお母様に読んでいただきたい、と目的がはっきりしてきました。

しかしそれを伝えるためには、何かが必要でした。

パッチワークのような皆様の声を繋ぐ「針と糸」が必要でした。

それが紙面上にどう表現できるのか。

何も思いつかない日々を重ねてしまいました。

今年のお年賀状に恵明学園から、7回忌コンサートをしたらというお誘いをいただきました。

私は最後まで聞く事ができなかった、幸子さんからの俊之君の声のテープを聞きました。

声の後には、優しい穏やかなそして静かな音楽を吹き込んでくださっていました。

その音色を聞きながら、原稿を読み、皆様の暖かいお言葉、俊之君の会話、言葉が泉のように溢れ出しました。

そしてこの追悼集の「針と糸」は、おひとりお一人の俊之君の関係が判らない事。母親であれば、これが誰か、どんな会話があったのか、彼がその関係のなかで何を学んだのか、知りたい。それがパッチワークを繋ぐ、そしてこの追悼集をお母様が手にした時、空白の時間を埋めることができる「針と糸」であると思いました。

そこで、この追悼集に寄せてくださった方々の私ができる限りの関係、そして思い出す俊之君の言葉を書き溜め始めました。

やっと、ここにお届けいたします。

最後に皆様の文章は、当時のままのため、タイムラグをお許しください。

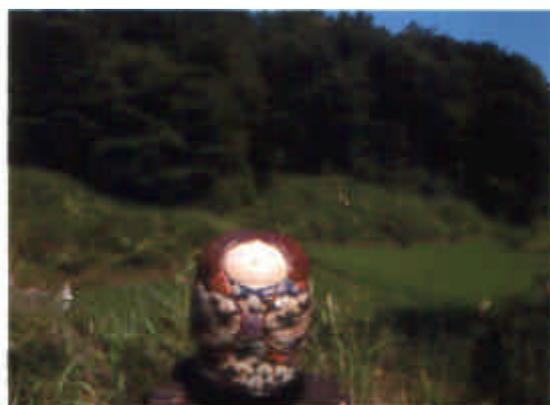
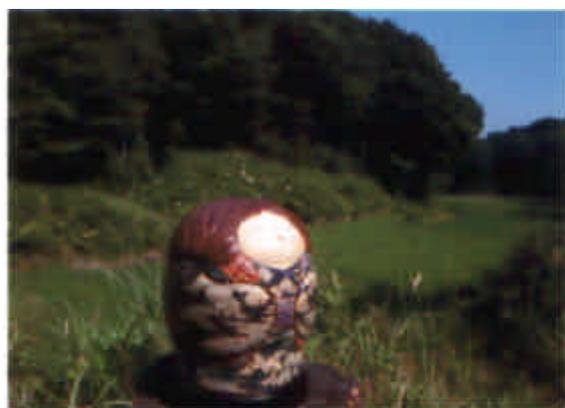
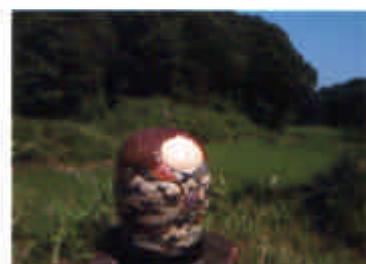
また稚拙な私の文章をお許しください。

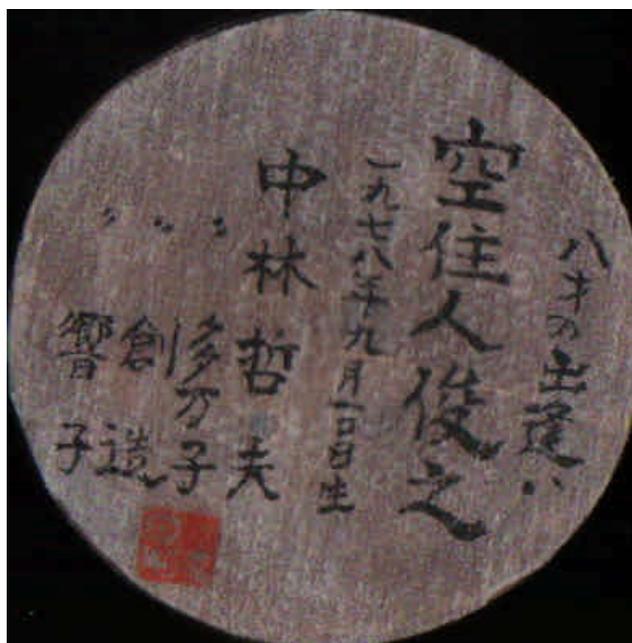
なお、文面を読み返しては、「こんなこと書いたら、俊之恥ずかしがる」とめげている私に、施設に居る人の偏見を、この追悼集は無くすよ。だって俊之君は可哀想なんかじゃないし、明るいいし、僕の友達と何にもかわらないよ。」と発行を薦めてくれた中林創造君に感謝します。

末尾になりましたが、俊之君を励ましつづけた私の友人、吉田由紀子氏、増田真理氏。今は亡き私の母、そしていろいろな体験を彼に提供して下さった姉、何も変わらず彼に話かけてくれた兄である北嶋家、矢崎家の皆様。俊之を受け入れてくださって感謝いたします。そして、私の良きパートナー、中林哲夫氏の多大なる影のご協力に感謝いたします。

2004年5月17日







八歳の出逢い ～家藤俊之君の追悼集～

2004年6月26日 初版第一刷発行

発行者 中林たまこ 清野知紘

発行元 〒214-0006 神奈川県川崎市多摩区菅仙谷2-3-8

fax / 044-944-0091

Home Page: <http://homepage3.nifty.com/tmpb/>

印刷 / 製本 (株)ナカバヤシ